

2023

INFORMATION

JA共済連のごあんない

農業を母に。 助け合いを父に。

私たちJA共済の成り立ちと使命。

それは、すべての産業の出発点である農業を母に、
人類普遍の道徳性のひとつである助け合いの理念を父とし、
地域に生きる一人ひとりの組合員の皆さまとともに、
一つひとつの暮らしの安心や幸せを追求することです。
そして、70年以上にわたるJA共済の歴史は、
組合員の皆さまとJA共済との深い絆の歴史でもあります。
時代や社会がどれだけ変わっても、その絆が変わることはありません。
これからも、地域の皆さまとともに、
暮らしの安心や幸せを追求していく、ひたむきに絆を深めていく。
農業を母に、助け合いを父に持つ、私たちだからこそ
いまそのことにますますの誇りを持ちたいと思うのです。

ずっとつづく、絆をつくろう。



JA共済事業の使命

- 一、JA共済は、農業協同組合が理念とする「相互扶助」を事業活動の原点とし、常に組合員・利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」を提供します。
- 一、JA共済は、最良の保障・価格・サービスによる「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供を通じて、組合員・利用者の豊かな生活づくりに努めます。
- 一、JA共済は、事業活動の積極的な取組みを通じて、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献します。

INDEX

- 2 トップメッセージ
- 4 JA共済について(協同組合、JAグループの一員として)
- 6 事業活動のご報告(令和4年度以降の事業トピックス)
- 10 JA共済の事業展開の基本的考え方

12 2022年度の業績

- 12 事業概況(令和4年度の業績ハイライト)
- 15 資産・負債等の状況
- 16 収支の状況
- 17 健全性を表す指標

20 事業活動

- 20 保障とサービスの一体的な提供
- 21 JA共済の保障ラインナップ
- 28 組合員・利用者・地域住民の皆さまへのサービスの提供
- 31 農業者の皆さまへの取り組み
- 33 ご契約者の皆さまへの取り組み
- 36 サポート体制

38 地域貢献活動

- 38 地域貢献の取り組み
- 39 地域貢献活動トピックス
- 40 暮らし・営農
(農業振興／文化支援／生活支援／環境保全)
- 42 ひと(健康管理・増進／介護・福祉)
- 44 いえ(災害救援／防災・防火対策／復興支援)
- 46 くるま(交通事故未然防止／交通事故被害者支援)

JA共済連の概要 (令和5年3月末現在)

名称	全国共済農業協同組合連合会(略称:全共連/愛称:JA共済連)	
創立	昭和26年(1951年)1月31日	
所在地	〒102-8630 東京都千代田区平河町2-7-9 JA共済ビル TEL.03-5215-9100(代表)	
会員数	693会員(正会員645、准会員48) ※正会員の内訳は、JA 557、県信連 32、県経済連 8、県厚生連 33、 その他連合会 13、全国連 2	
総代定数	210 都道府県の区域ごとに正会員たるJAおよび連合会から選挙される 総代定数 208、正会員たる全国連から選挙される総代定数 2	
役員数	経営管理委員 24名、監事 6名、理事 10名(令和5年7月27日現在)	
職員数	6,698名 一般職員：男子 3,611名、女子 1,792名 常勤嘱託：1,295名	

資産状況	総資産	57兆 6,870億円
負債状況	共済契約準備金	51兆 8,384億円
純資産状況	出資金	7,565億円
保有契約高	生命総合共済	85兆 2,034億円
	建物更生共済	139兆 1,208億円

トップメッセージ

農業協同組合が理念とする『相互扶助』 もっと安心、もっと信頼されるJA共済をめざ

刊行のごあいさつ

日頃よりJA共済事業をご利用いただき、厚くお礼申し上げます。

JA共済は、「一人は万人のために、万人は一人のために」という「相互扶助(助け合い)」を事業理念に、「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供を通じて、組合員・利用者の皆さまが豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりをめざした取り組みを行って

います。

このたび、私どもの経営方針、事業概況、財務状況などを皆さまにわかりやすくお知らせするために、ディスクロージャー誌「JA共済連のごあんない」を作成いたしました。

本誌をご覧ください、JA共済事業に対する一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

はじめに

令和4年度に発生した地震・台風・豪雨などの自然災害および令和5年6月から発生している豪雨災害により被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げます。

近年の相次ぐ自然災害により、自然災害への備え

として保障の必要性が再認識されるなか、JA共済連では、JA共済事業の使命を果たし、被災地域の一日も早い復旧・復興のお役に立てるよう、引き続き事業の総力をあげて取り組んでまいります。

農業を取り巻く環境

日本の農業は、農業者の減少と高齢化が顕著となっている一方で、法人経営体が増加するなど、農業経営の大規模化・法人化が進んでいます。

また、近年の世界的な人口増加に伴う食料需要の拡大、新型コロナウイルスの感染拡大やウクライナ情勢に伴う生産資材価格の高騰・高止まりに加えて、高病原性鳥インフルエンザが前例にないペースで発生するなど、農業経営への影響が顕在

化しています。

このような状況のなか、政府は、食料自給率の向上と食料安全保障を確立するため、輸出促進や農村振興、先端技術を活用したスマート農業の加速化等を推進するなど、激変している情勢変化を踏まえ、「食料・農業・農村基本法」の改正に向けた議論が進められています。

令和4年度の事業概況

令和4年度は、「令和4年度から6年度 JA共済3か年計画」の初年度として、同計画の基本方針を踏まえて策定した令和4年度事業計画に基づき、次のことに取り組みました。

ひと分野の保障提供について、認知症共済の新設にあわせた「げんきなカラダプロジェクト」関連サービスの拡充など、保障・サービスの一体的な展開を図りました。

いえ分野の保障提供については、多発・激甚化する自然災害へ万全に備えるため、地図システム・ハザードマップ等を活用し、防災情報の提供および家財保障を中心とした保障点検に取り組みました。

農業保障の取組強化に向けては、農業者賠償責任共済(ファーマスト)の新設を契機としたご案内に取り組みました。

組合員・利用者のさらなる利便性向上に向けては、Webマイページ上で自動車共済の継続手続きやWeb証書の交付を可能とするなど機能拡充に取り組みました。また、長期共済の異動手続きについてペーパーレス手続きの範囲を拡大するとともに、キャッシュレス手続きの活用拡大に取り組みました。

全契約者・組合員に対する“寄り添う”活動の実践に向けては、LA・スマイルサポーターによる対面での3Q活動と非対面ツール(3Qコール・オンライン面談等)

を事業活動の原点に、 していきます。

を活用し展開するとともに、デジタル技術を用いてWebマイページの登録者に対し情報発信等を実施しました。

また、適正な事務手続きの定着および共済推進のコンプライアンス態勢の強化に向けては、令和4年4月からWebマイページ上で契約者が異動・共済金支払手続きを確認できる環境を整備するとともに、

JA共済相談受付センターからの契約者への電話による契約確認やオンライン面談を活用した高齢者対応の取り組みを実施しました。

むすび

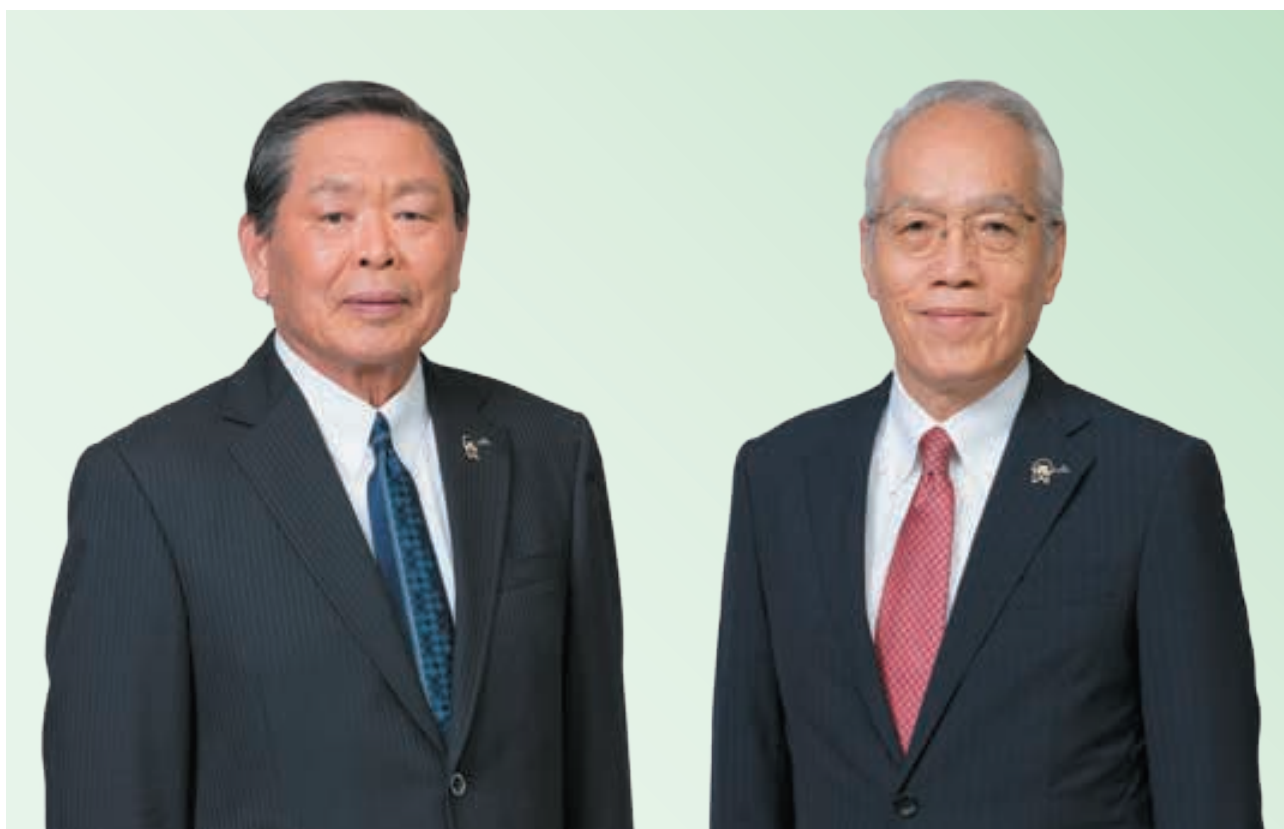
JA共済は、共済事業開始以来70年以上にわたり、相互扶助の理念のもと、地域に「しあわせの輪」を広げ、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに取り組んでまいりました。

コロナ禍であっても前述のような着実な事業活動を実施できましたのも、これまでの地域に根ざした活動により築いた組合員・利用者の皆さまとの深い絆の賜物と心より感謝申し上げます。

JA共済は、今後いかなる環境下であっても、永続的に組合員・利用者の皆さまに「安心」と「満足」を提供できるよう、これまで以上に強い使命感と情熱をもって、よりよい保障・サービスの実現と健全な経営による誠実な事業活動を行ってまいります。

引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和5年8月



経営管理委員会会長 | 青江 伯夫

代表理事理事長 | 柳井 二三夫

JA共済について(協同組合、JAグループの一員として)

JAは、相互扶助の精神のもとに農家の営農と生活を守り高め、よりよい地域社会を築くことを目的に、組合員の運営参画により組織された協同組合です。JA共済は、JAグループの一員として、「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供(共済事業)を中心とした活動を通じて組合員・利用者の皆さまの生活を支えています。

JA(農業協同組合)とは

JAは、営農指導のほか、生産資材の共同購入や農畜産物の共同販売、貯金の受け入れ、農業生産資金や生活資金の貸し付け、農業生産や生活に必要な共同利用施設の設置、および万一の場合に備える共済等の事業や活動を行っています。

JAは、農家・地域住民が組合員となって組織され、運営されています。



JA綱領 わたしたちJAのめざすもの

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則(自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等)に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

- 1 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 1 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 1 JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 1 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
- 1 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

協同組合とは(協同組合としてのJA)

協同組合とは、生活をよりよくしたいと願う人たちが共通する目的のために自主的に集まり、その事業の利用を中心としながら民主的な運営を行う、営利を目的としない組織です。

JAは、農業協同組合として、組合員の営農と生活全般を守り豊かにすることを目的に活動しています。

なお、平成28年11月に「協同組合の理念と実践」はユネスコ無形文化遺産に登録されています。

協同組合原則(世界各国の協同組合共通の運営原則)

■ **定義** 協同組合とは、人々が自主的に結びついた自律の団体である。人々が共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、経済的・社会的・文化的に共通して必要とするものや強い願いを満たすことを目的にしている。

■ 原則

第1原則 自主的で開かれた組合員制

加入・脱退が自由。組合の活動に参加し、事業を利用したいと組合に加入を希望するものは加入を拒まず、強制的に脱退させることはない。

第2原則 組合員による民主的な管理

組合員それぞれが1人1票の選挙権や議決権を行使して、民主的な方法で組合を管理する。

第3原則 組合財政への参加

組合員は公平に出資して、組合の事業を利用する。

■ **価値** 協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯という価値に基づいている。正直、公開、社会的責任、他者への配慮という倫理的な価値を信条とする。

第4原則 自主・自立

組合員による民主的な管理を確保し、組合の自主性を保持する。

第5原則 教育・研修、広報

組合員ひとりひとりの参加意欲を高める。

第6原則 協同組合間の協同

地域・全国、近隣諸国、国際的に相互に協同する。

第7原則 地域社会への関わり

魅力的な地域づくりや地域社会の持続的な発展に取り組む。

※ 上記の協同組合原則は、国際協同組合同盟(ICA)全体総会で採択された「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」です。

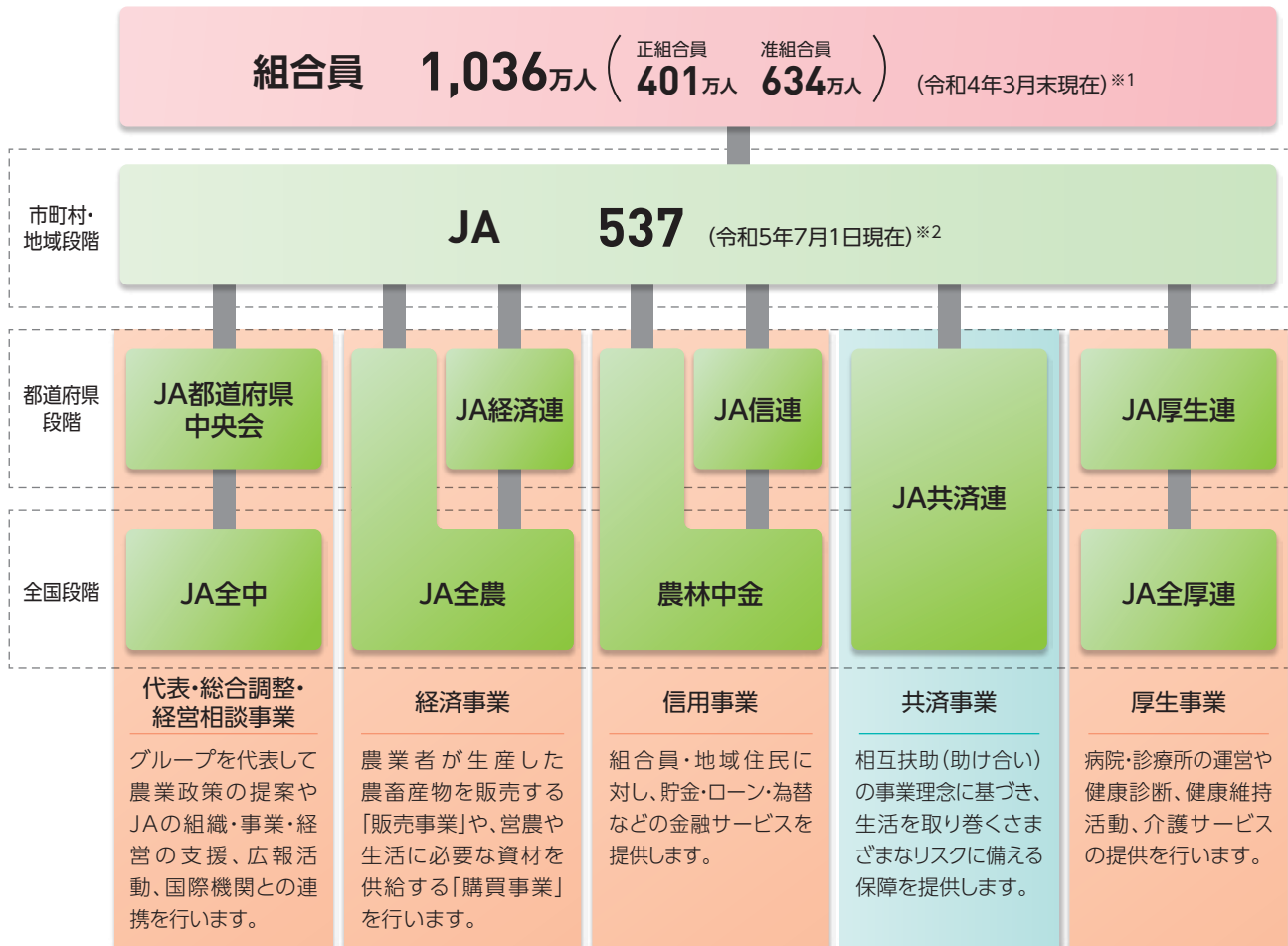
JAグループとは

JAグループは、組合員の営農と生活全般にかかる総合事業を展開する市町村・地域段階の「JA」と、JAが行う各事業を効率的に実施するために組織された都道府県・全国段階の「連合会・中央会」等が連携して事業展開しています。



JAマークの大きな三角形は「自然」「大地」、小さな三角形は「人間」を表しています。左端の円は「農業の豊かさ」「実り」、さらには協同の精神に基づく「人の和」を象徴しています。

▶ JAグループの組織図



※1 組合員数は、「令和3事業年度総合農協統計表」(農林水産省)によるものです。

※2 JA数は、JA全中調査によるものです。

JA共済が行う共済事業とは

共済とは、生活を取り巻くさまざまなリスク(ケガ・病気、火災・自然災害、交通事故など)に対して、組合員があらかじめ一定の「共済掛金」を拠出して協同の財産を準備し、不測の事故などが生じた場合に「共済金」として支払うことによって、組合員やその家族に生じる経済的な損失を補い、生活の安定を図る相互扶助(助け合い)の保障制度です。

JA共済は、JAとJA共済連がそれぞれの役割を担い、組合員・利用者の皆さまに「ひと・いえ・くるまの総合保障」を提供しています。

JA共済

JA

- JA共済の窓口です。
- 組合員・利用者の皆さまの立場に立った事業活動で皆さまの暮らしをサポートしています。

JA共済連

- JAと一体となって、JA共済事業を運営しています。
- 各種の企画、仕組開発、資産運用業務や支払共済金にかかる準備金の積み立てなどを行っています。

事業活動のご報告 (令和4年度以降の事業トピックス)

JA共済では、組合員・利用者の皆さま一人ひとりに寄り添った安心と満足を提供するため、ニーズを反映した仕組みの開発やデジタル技術を活用したサービスの向上、農業・地域に貢献する取り組みなどさまざまな活動に取り組んでいます。

地域密着の事業推進の実践

JA共済では、組合員・利用者の皆さまのお宅への訪問や電話により、コミュニケーションの強化を図ることで、一人ひとりのライフスタイルの変化やニーズにあった保障を提供するとともに、共済金をもれなくご請求いただくため、3Q活動を展開しています。

訪問による対面での3Q活動に加え、電話にて契約内容の確認や生活の変化などを伺う3Qコールやオンライン面談など、非対面でも組合員・利用者の皆さまとのつながりを持てる環境を整備しています。



契約者・利用者の皆さまへの対応力の強化

ライフアドバイザー(LA)は、組合員・利用者の皆さまの幅広いニーズに対応できる知識を持つスタッフで、全国で18,308名が活動しています(令和5年3月末現在)。また、スマイルサポーターは、窓口対応や電話対応などを通じて、組合員・利用者の皆さまへさまざまな情報提供、提案を行っています。

自動車損害調査サービスについては、全国で約2,530か所のサービス拠点(事故対応窓口)と約4,750名の損害調査サービス担当者を配置するほか

(令和4年4月1日現在)、フリーダイヤルによる事故受付の24時間・365日対応など、契約者・利用者の皆さまへのサービスの充実を図っています。

JA共済では、これらのスタッフの高度な知識の習得、能力向上を図るための各種研修会を実施するとともに、契約者・利用者満足度調査を踏まえた改善活動に取り組むことで、契約者・利用者対応力の強化を図っています。

ライフプランに沿った提案活動に向けた取り組み

JA共済では、組合員・利用者の皆さまの多様化するニーズに確実に応えし、一人ひとりに寄り添った保障の提案やアドバイスを行うため、公的保険・税務の知識やライフプランに沿った保障設計のスキル習得に向けて各種研修会を実施しています。令和4年4月からは、オンライン研修と集合研修の融合を可能とする人材育成支援システム「CAREERSHIP」を導入し、専門知識の習得やスキルのさらなる定着を図っています。

ライフアドバイザー(LA)が組合員・利用者の皆さまのお宅を訪問する際には、タブレット型端末機(Lablet's)を使い、視覚的にわかりやすく、ご契約状況のご説明や各種情報提供を行っています。Lablet'sの活用により、より一層組合員・利用者の皆さまのご要望にお応えできるよう努めていきます。

組合員・利用者の皆さまのニーズを反映した仕組みの開発

JA共済では、組合員・利用者の皆さま一人ひとりのニーズにあった「ひと・いえ・くるまの総合保障」を提供するため、毎年、組合員・利用者の皆さまや日頃推進活動を行っているライフアドバイザー（LA）等を対象とした生活保障に関するアンケート等を実施し、よりの確にニーズを反映した仕組みの開発を行っています。

【令和4年4月】

- 認知症を発症した際の経済的負担に備えるとともに、未然予防や早期発見をサポートする「認知症共済」を新設しました。あわせて、認知症の予防・早期発見、発症後をサポートする各種サービスを追加しました。
- 農業においては「生産」から「出荷・販売後」までにさまざまな賠償リスクが想定されることから、農業者に共通するさまざまな賠償リスクについて一体的に保障する「農業者賠償責任共済ファーマスト」を新設しました。

【令和5年1月】

- 農業者の方の一層の保障拡充を図るため、「自動車共済」について、「車両損害限定特約」の保障拡充等を実施するとともに、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構が実施する安全性検査に合格した農業用自動車（乗用トラクター、田植機、自脱型コンバインなど）の共済掛金を割り引く「農業用安全自動車割引」を新設しました。

【令和5年4月】

- ライフステージの変化に伴い、万が一保障の必要保障額は変化することから、保障額を逡減させる時期を任意に設定することで、ライフステージの変化に応じた保障設計が可能な「定期生命共済（逡減期間設定型）みちびき」を新設しました。



契約者・利用者の皆さまの利便性向上とJAの事務負担軽減に向けた取り組み

JA共済では、組合員・利用者の皆さまに寄り添い、さらなる利便性の向上を図るとともに、JAの事務負担軽減を一層進めることを目的に、デジタル技術を活用したさまざまな取り組みを行っています。令和4年12月には、いつでも・どこでもJA共済のインターネットサービスをご利用いただけるご契約者さま向け専用「Webマイページ」に「自動車共済の継続手続き」機能を拡充しました。

健康や防災などの日常に役立つコンテンツをどなたでも利用できるスマートフォン向け「JA共済アプリ」には、GPS機能により避難場所・避難所の位置や道順を確認することができる「避難場所マップ」機能や警戒レベル3以上の気象警報等が発令された際に避難を呼びかけるメールが届く「防災アラートメール」機能など、防災に関するコンテンツを拡充しました。

Webマイページ



JA共済アプリ



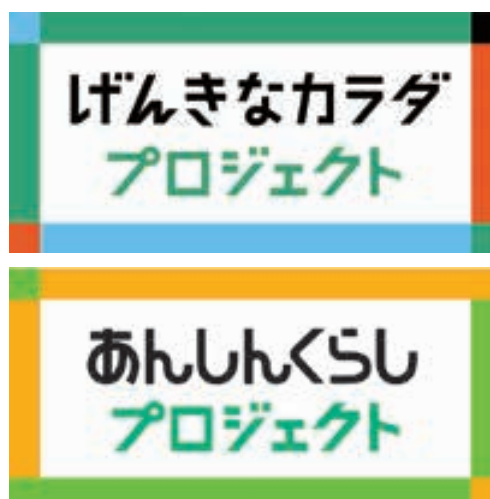
また、自然災害が頻発する現状に対応するため、組合員・利用者の皆さまにお住まいの地域の自然災害リスクなどのお役立ち情報を提供するとともに、自然災害発生時には、地図データ上にご契約情報を表示し、効率的な損害調査・査定計画の策定などを可能とする地図システムを導入しています。

組合員・利用者・地域住民の皆さまの豊かな生活づくりをサポートする取り組み

JA共済では、組合員・利用者・地域住民の皆さまの「げんきなカラダ」づくりを総合的にサポートする取り組み「げんきなカラダプロジェクト」を令和3年4月から開始しています。

上記取り組みの一環として、どなたでも気軽に参加いただけるオンラインウォーキングイベント「げんきなカラダWALK」を開催し、多くの方の歩く習慣作りによる健康増進に貢献しました。

令和5年4月からは、「防災・減災、再発防止」に向けた取り組みとして、組合員・利用者・地域住民の皆さまの安心・安全な暮らしをサポートする取り組み「あんしん暮らしプロジェクト」を新たに開始しました。



地域に貢献する取り組み

JA共済では、地域・農業の活性化に貢献するため、食育イベントや農業体験の開催・支援など地域の実情に応じた活動に取り組んでいます。

また、元気な生活を送るために役立つ健康管理・増進活動をはじめ、介護・福祉活動、防災・防火対策活動のほか、自然災害などの被害にあわれた際の救援活動から復興支援に至るまで、さまざまな活動に取り組んでいます。



食育イベントの開催

農業に貢献する取り組み

農業を取り巻くリスクが増大・多様化している状況を踏まえ、JAグループ各団体と連携し、農業者の皆さまに農業を取り巻くリスクをお知らせする「農業リスク診断」を実施しています。

また、「事故が起こった際の保障の提供」だけでなく、「農作業事故の未然防止」をリスク対策の両輪と位置付け、「農作業事故体験VR」を活用した学習プログラムなどを通じ、農業者の皆さまの安全確保、リスク軽減・回避につながる活動に取り組んでいます。



農業リスク診断システム画面



VR映像

SDGsへの取り組み

JA共済は、「一人は万人のために、万人は一人のために」という「相互扶助(助け合い)」を事業理念に、「ひと・いえ・くるまの総合保障」や農業者の皆さまへの保障の提供およびさまざまな地域貢献活動を通じ、組合員・地域住民の皆さまが豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりをめざしてきました。このような取り組みの一つひとつが、SDGs(持続可能な開発目標)の実践そのものと考えています。

これからもJA共済は、以下の取組方針のもと積極的に事業活動を行うことで、SDGsがめざす社会の実現に貢献し、地域社会を構成する一員としての社会的役割を果たしていきます。

▶ JA共済SDGs取組方針

保障・サービスの提供や地域貢献活動等の事業活動を実践し、JA共済の事業基盤である農業と地域社会の持続可能性を確保します。

対応方向	貢献する主なSDGs目標	主な取り組み
健康で豊かな生活への貢献	  	<p>保障提供 ・ 病気、ケガ、老後などに備える保障の提供</p> <p>ひと</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康増進に役立つ各種サービスメニュー等の提供(健診結果チェック、食事管理アプリ、脳トレ、運動トレーニング、各種検査の優待提供など) 元気な生活を送るために役立つ健康管理・増進活動、介護・福祉活動(レインボー体操、ちよいムズチャレンジなど) <p>くるま</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故被害者の社会復帰支援に向けた取り組み(介助犬の育成支援、リハビリテーションセンターによる社会復帰支援など)
安全・安心を実感できる地域社会づくり	   	<p>保障提供 ・ 地震や台風などさまざまな自然災害に備える保障の提供</p> <p>いえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災・減災、再発防止に役立つ各種サービスメニュー等の提供(住宅の修理・リフォーム業者紹介サービスや住宅診断サービス、ホームセキュリティサービスの優待提供など) 万が一に備える防災・減災対策活動(ザブトン教授の防災教室)や自然災害にあわれた際の救援活動(災害シート・災害キットの無償配布) <p>くるま</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故未然防止に役立つ各種サービスメニュー等の提供(安全運転に資する脳トレなど) 交通事故のない社会をめざす交通事故未然防止活動(JA共済アンパンマン交通安全キャラバン、自転車交通安全教室など)
持続可能な農業への貢献	   	<p>保障提供 ・ 農業者の皆さまの事業・生活基盤の安定化に向けた保障の提供</p> <p>くらし・営農</p> <ul style="list-style-type: none"> 農作業事故未然防止に役立つ各種サービスメニュー等の提供(安全性の高い農機紹介など) 農業者の皆さまの安全確保に向けた農作業事故未然防止活動(農作業事故体験VRを活用した学習プログラムの展開など) 農業経営を取り巻くリスクとその備えの確認を行う農業リスク診断
地球環境への貢献	   	<p>資産運用 ・ 気候変動への対応を目的としたESGテーマ型投資への取り組み</p> <p>くらし・営農</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙使用量削減の取り組み(約款のWeb化、契約手続きのペーパーレス化など) フード・マイレージ低減に向けた「地産地消」支援の取り組み(それいけ!アンパンマンミニショー&握手会、食育イベント・農業体験など)

JA共済の事業展開の基本的考え方

JA共済は、組合員・利用者の皆さま一人ひとりに「寄り添い」、包括的な安心を「届け」、農業・地域社会とより広く・より深く「繋がる」ことで、安心と満足を提供していきます。今後も組合員・利用者の皆さまの負託に応え、社会的な責任を果たしていくため、組合員・利用者本位の業務運営に向けた取り組みの強化を図っていきます。

今次3か年計画の基本的考え方



寄り添う

- 全契約者・組合員に“寄り添う”活動の実践(コロンブス活用によるデータに基づく活動等)
- 保障・サービスの一体的展開による付加価値提供(切れ目なく“寄り添う”)
- 非対面手続きの拡充による利便性向上・対面と非対面の融合による接点強化

届ける

- 新たなニーズを捉えた仕組開発
- 生命保障を中心とした「ひと・いえ・くるま」の万全な保障提供
- 「ひと・いえ・くるま」に続く第4の柱に向けた農業保障の取組強化

繋がる

- 未加入組合員等(世帯内未加入者・他事業利用者等)へのアプローチ強化
- JAの事業活動を通じた農業・地域への貢献によるJAファンの拡大

今次3か年計画について

JA共済は、令和4年度から6年度における「JA共済3か年計画」に基づき、JAとJA共済連の一体的な事業運営を強固にしつつ、将来にわたって、事業環境の変化に適切に対応した事業活動を展開することにより、組合員・利用者の皆さまの暮らしを守り、農業と地域社会づくりに貢献し続けていきます。

スローガン

新たな時代に、変わらぬ安心を
～地域とともに、農とくらしの未来を支えるJA共済～

基本的考え方

組合員・利用者に寄り添った
安心と満足の提供



持続可能な
JA経営基盤の確立・強化

組合員・利用者に「寄り添い」、包括的な安心を「届け」、
農業・地域社会とより広く・より深く「繋がる」ことを実践

重点取組事項

1

「組合員・利用者一人ひとりに寄り添った安心と満足の提供」を実現するため、
新たな生活様式への対応の加速に取り組みます。

1. 新たなニーズを捉えた保障・サービスの一体的展開
2. デジタル活用による手続き整備と利便性の高い接点の構築
3. 農業保障の取組強化と農業・地域への貢献

2

「持続可能なJA経営基盤の確立・強化」を実現するため、
共済事業の長期安定的な展開に取り組みます。

1. 全契約者・組合員に“寄り添う”活動の実践
2. デジタル活用等による業務効率化・抜本的な事務の簡素化
3. JAの共済事業のPDCA実践支援

3

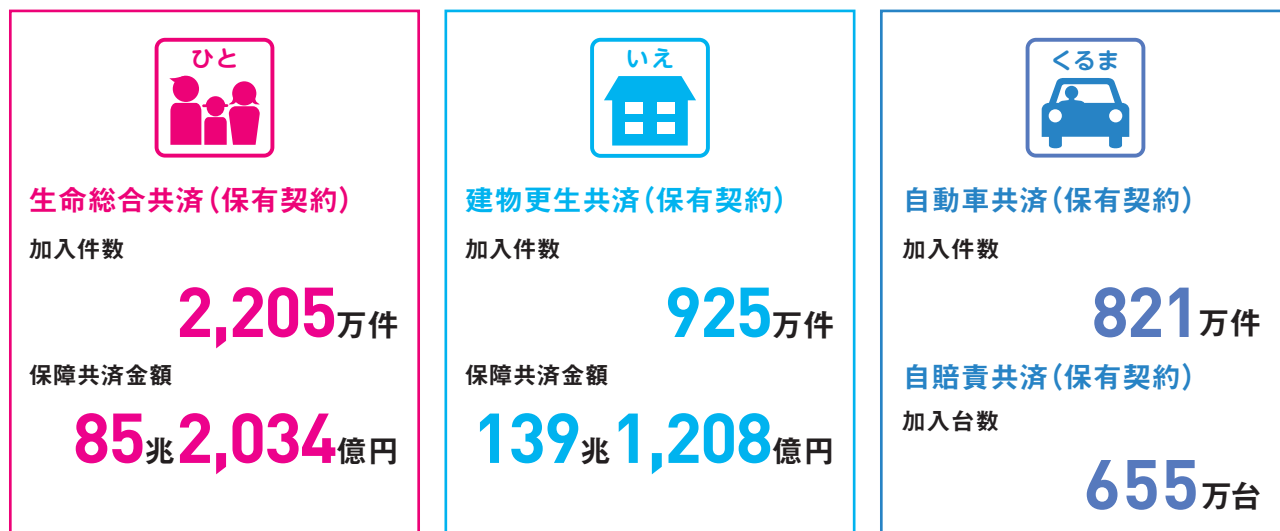
「JA共済事業を下支えする健全性・信頼性の強化」を実現するため、
長期にわたり契約者が安心できる土台・スキームづくりに取り組みます。

1. JA指導・サポート機能の強化に向けた連合会組織の整備
2. 新たな健全性規制を見据えた統合リスク管理態勢の高度化・強化
3. CS向上への取組みおよびコンプライアンス態勢強化等による信頼性の向上

事業概況(令和4年度の業績ハイライト)

JA共済の主な加入状況

JA共済は、組合員・利用者の皆さまの暮らしをサポートするため、「ひと・いえ・くるまの総合保障」を提供しており、数多くの方にご加入いただいています。



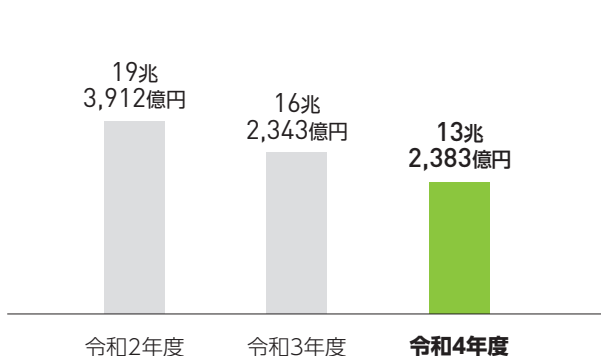
長期共済 新契約高

保障共済金額

13兆2,383億円

長期共済の新契約高は、満期共済金額1兆6,578億円(前年度比71.2%)、保障共済金額13兆2,383億円(前年度比81.5%)となりました。

▶ 長期共済 新契約高の推移



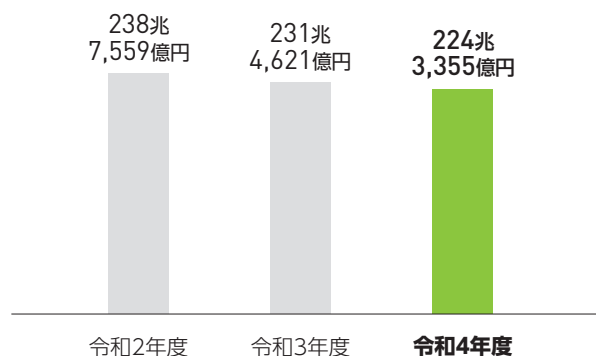
長期共済 保有契約高

保障共済金額

224兆3,355億円

長期共済の保有契約高は、満期共済金額43兆624億円(前年度比97.5%)、保障共済金額224兆3,355億円(前年度比96.9%)となりました。

▶ 長期共済 保有契約高の推移



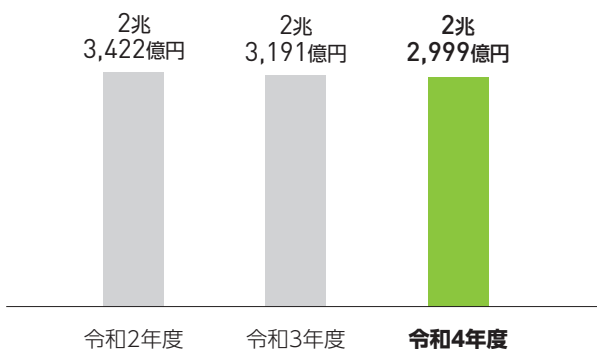
年金共済 保有契約高

年金年額

2兆2,999億円

年金共済の新契約高は、年金年額850億円(前年度比98.2%)、また、保有契約高は年金年額2兆2,999億円(前年度比99.2%)となりました。

▶ 年金共済 保有契約高の推移



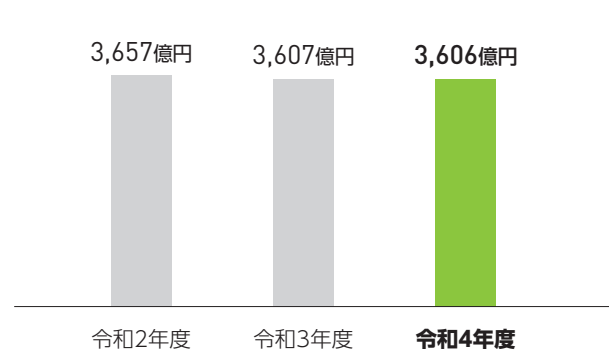
短期共済 新契約高

共済掛金

3,606億円

短期共済の新契約高は、契約件数1,954万件(前年度比105.8%)、JA共済連が収納した共済掛金は3,606億円(前年度比100.0%)となりました。

▶ 短期共済 新契約高の推移

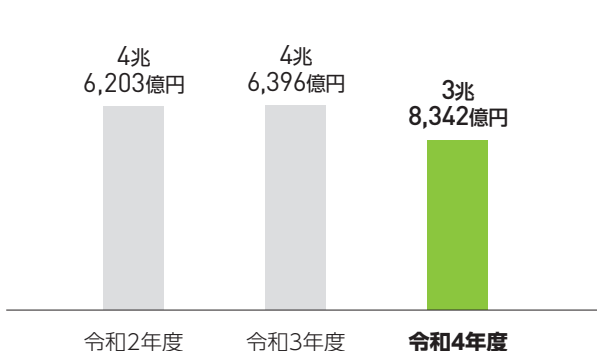


共済掛金

3兆8,342億円

JA共済連が収納した共済掛金は、3兆8,342億円(前年度比82.6%)となりました。

▶ 共済掛金の推移

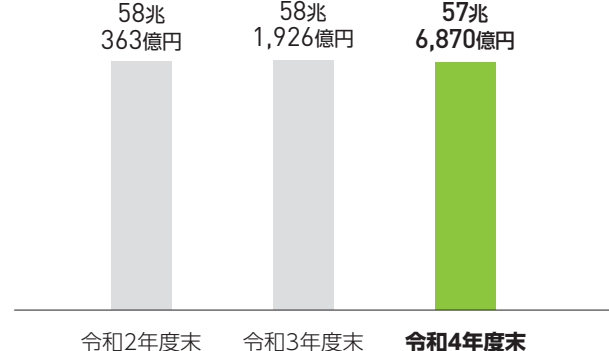


総資産

57兆6,870億円

総資産は、57兆6,870億円(前年度末比99.1%)となりました。なお、ご契約者の皆さまへの共済金等の支払いに備え、積み立てている共済契約準備金は51兆8,384億円(前年度末比100.1%)となりました。

▶ 総資産の推移



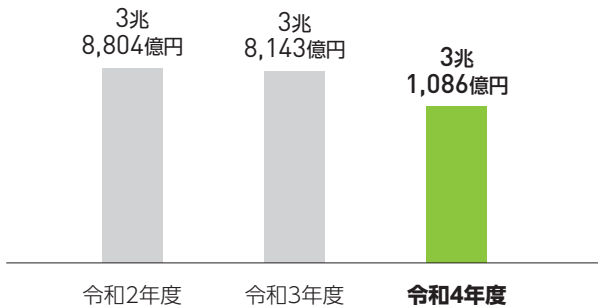
共済金支払額

3兆1,086億円

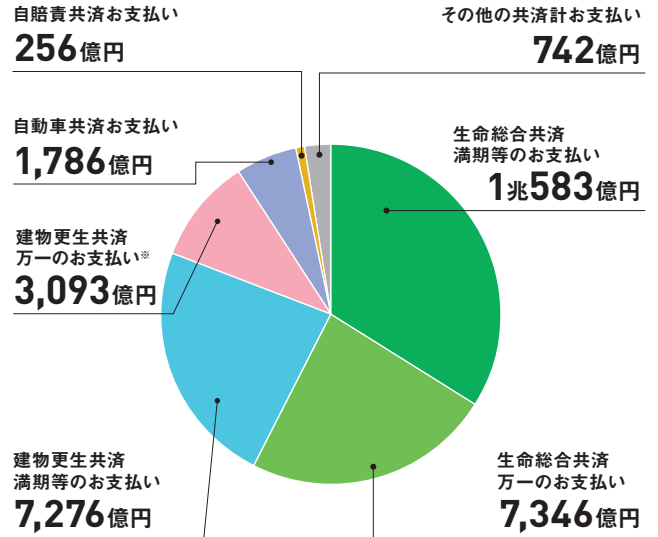
共済金支払額は、総額で3兆1,086億円(前年度比81.5%)となりました。

内訳は、満期共済金1兆8,199億円(前年度比66.0%)、事故共済金1兆2,887億円(前年度比122.0%)となっています。

▶ 共済金支払額の推移



▶ 共済金支払額の内訳



*建物更生共済における万一のお支払いのうち、自然災害に対するお支払いは2,643億円です。

▶ 建物更生共済における自然災害に対する共済金支払状況

令和4年度の主なお支払い

- ① 令和4年3月
福島県沖を震源とする地震(福島・宮城・岩手ほか)
183,107件 / **1,522**億円 (令和3年度のお支払いを含む)
- ② 令和4年6月
令和4年6月関東ひょう害(埼玉・群馬・千葉ほか)
9,646件 / **61**億円
- ③ 令和4年9月
令和4年台風14号(宮崎・鹿児島・福岡ほか)
65,094件 / **283**億円
- ④ 令和4年9月
令和4年台風15号(静岡・愛知・三重ほか)
3,390件 / **79**億円

過去の主なお支払い*

- ① 平成7年1月
阪神・淡路大震災(兵庫・大阪・京都ほか)
101,535件 / **1,188**億円
- ② 平成16年9月
台風18号(山口・熊本・福岡ほか)
284,564件 / **1,083**億円
- ③ 平成23年3月
東日本大震災(福島・宮城・岩手ほか)
684,820件 / **9,376**億円
- ④ 平成28年4月
熊本地震(熊本・大分・福岡ほか)
94,223件 / **1,487**億円
- ⑤ 平成30年9月
台風21号(大阪・愛知・和歌山ほか)
231,461件 / **1,173**億円
- ⑥ 令和元年10月
台風19号(神奈川・宮城・静岡ほか)
83,661件 / **1,014**億円
- ⑦ 令和3年2月
福島県沖地震(福島・宮城・栃木ほか)
133,145件 / **1,098**億円

*平成7年以降に発生した、支払共済金額が1,000億円以上の自然災害を掲載しています。

資産・負債等の状況

資産

総資産は、前年度末より5,056億円減少し、57兆6,870億円となりました。このうち有価証券は53兆8,180億円(総資産に占める割合93.3%)、貸付金は5,032億円(同0.9%)、運用不動産は2,893億円(同0.5%)となりました。

貸借対照表

(単位：億円)

科目	令和3年度末	令和4年度末
現・預金	6,102	5,053
金銭の信託	2,409	2,512
金銭債権	140	104
有価証券	543,059	538,180
貸付金	5,661	5,032
運用不動産	2,918	2,893
未収共済掛金	2,531	2,164
未収再保険勘定	118	129
その他資産	2,588	2,060
業務用固定資産	1,500	1,602
資本貸付金	2,000	2,000
外部出資	1,099	1,111
繰延税金資産	11,826	14,055
貸倒引当金	△ 24	△ 22
外部出資等損失引当金	△ 7	△ 7
資産の部合計	581,926	576,870

負債・純資産

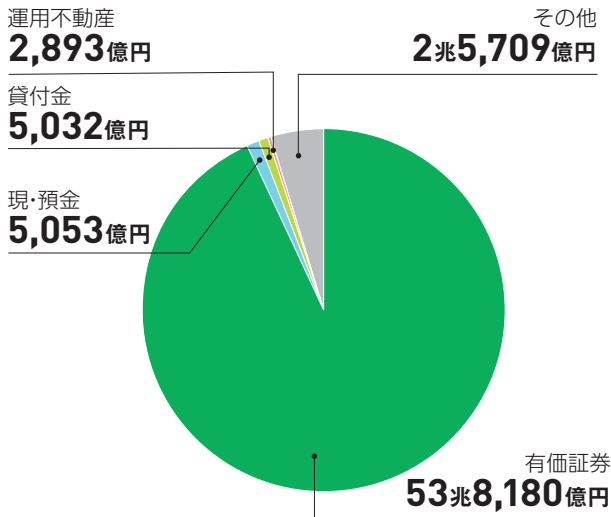
負債の合計は、前年度末より824億円減少し、53兆6,306億円となり、このうち責任準備金は、前年度より1,219億円増加し、50兆3,929億円となりました。

純資産の合計は、4兆564億円となりました。

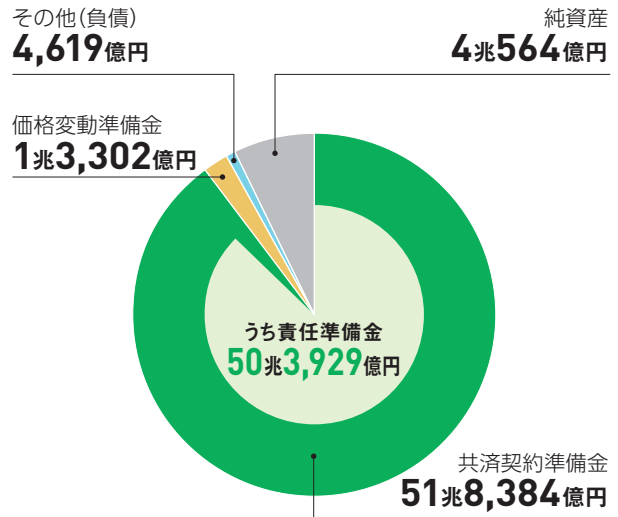
(単位：億円)

科目	令和3年度末	令和4年度末
共済契約準備金	517,943	518,384
うち責任準備金	502,710	503,929
未払再保険勘定	112	117
代理店勘定	5	1
共済資金	64	64
その他負債	5,688	4,010
諸引当金	415	425
価格変動準備金	12,900	13,302
負債の部合計	537,131	536,306
出資金	7,565	7,565
利益剰余金	23,885	24,303
利益準備金	4,510	4,716
その他利益剰余金	19,374	19,586
会員資本合計	31,450	31,868
その他有価証券評価差額金	13,345	8,700
繰延ヘッジ損益	—	△ 5
評価・換算差額等合計	13,345	8,695
純資産の部合計	44,795	40,564
負債及び純資産の部合計	581,926	576,870

▶ 資産の内訳(令和4年度末)



▶ 負債・純資産の内訳(令和4年度末)



収支の状況

経常損益

経常収益は、前年度より8,912億円減少し、5兆1,015億円となりました。

このうち直接事業収益は、受入共済掛金の減少等にともない、前年度より8,041億円減少し、3兆8,485億円となりました。財産運用収益は、前年度より484億円増加し、1兆1,282億円となりました。

経常費用は、前年度より8,431億円減少し、4兆9,792億円となりました。

このうち直接事業費用は、支払共済金の減少等にともない、前年度より1兆18億円減少し、4兆3,175億円となりました。また、共済契約準備金繰入額は、責任準備金繰入額の増加等にともない、前年度より1,182億円増加し、1,320億円となりました。

これらの結果、経常利益は、前年度より480億円減少し、1,222億円となりました。

特別損益

特別利益は、前年度より5億円減少し、15億円となり、特別損失は、前年度より2億円増加し、23億円となりました。

当期剰余金

当期剰余金は、前年度より314億円減少し、715億円となりました。

剰余金処分額

当期末処分剰余金1,866億円のうち、各会員に対して151億円を出資配当金として(出資配当率は年2.00%)、113億円を事業分量配当金として配当しています。さらに、共済契約特別積立金、経営基盤整備積立金および地域・農業活性化積立金などの任意積立金への積み立てが993億円となっています。

損益計算書

(単位:億円)

科目	令和3年度	令和4年度
経常収益	59,927	51,015
直接事業収益	46,526	38,485
共済契約準備金戻入額	2,466	1,131
財産運用収益	10,797	11,282
その他経常収益	136	116
経常費用	58,224	49,792
直接事業費用	53,193	43,175
共済契約準備金繰入額	137	1,320
財産運用費用	1,841	2,794
価格変動準備金繰入額	873	401
事業普及費	221	199
事業管理費	1,166	1,168
その他経常費用	789	732
経常利益	1,703	1,222
特別利益	20	15
特別損失	20	23
税引前当期剰余	1,703	1,214
法人税等合計	301	185
法人税、住民税及び事業税	979	610
法人税等調整額	△677	△425
契約者割戻準備金繰入額	372	314
当期剰余金	1,029	715
当期首繰越剰余金	454	473
災害救援積立金取崩額	10	9
交通事故対策基金取崩額	13	15
経営基盤整備積立金取崩額	618	582
地域・農業活性化積立金取崩額	116	71
当期末処分剰余金	2,243	1,866

剰余金処分計算書

(単位:億円)

科目	令和3年度	令和4年度
当期末処分剰余金	2,243	1,866
剰余金処分額	1,769	1,402
利益準備金	205	143
任意積立金	1,266	993
出資配当金	151	151
事業分量配当金	145	113
次期繰越剰余金	473	464

健全性を表す指標

支払余力(ソルベンシー・マージン)比率の状況

令和4年度末のJA共済連の支払余力(ソルベンシー・マージン)比率は1,095.4%となっており、十分な支払余力を確保しています。

支払余力(ソルベンシー・マージン)比率

(単位:億円)

1,095.4%

	令和3年度末	令和4年度末	増減
支払余力(ソルベンシー・マージン)総額(A)	126,161	122,567	△3,594
リスクの合計額(B)	18,590	22,378	3,788
支払余力(ソルベンシー・マージン)比率 $\frac{(A)}{(B)} \times \frac{1}{2} \times 100$	1,357.3%	1,095.4%	△261.9%

※ 令和4年度末より、南海トラフ地震等の地震研究の最新知見を巨大災害リスクの算定に反映しています。

▶ 支払余力(ソルベンシー・マージン)比率

支払余力(ソルベンシー・マージン)比率とは、通常の予測を超えて発生する諸リスク(大規模自然災害など)に対応するため、どのくらいの支払余力を備えているかを判断するための経営指標のひとつです。

JA共済では、生命共済事業と損害共済事業の両方を実施しているため、生命保険会社または損害保険会社のソルベンシー・マージン比率と単純に比較はできません。

なお、この比率が200%を下回った場合には、監督官庁による業務改善命令等の対象となります。

実質純資産額

令和4年度末のJA共済連の実質純資産額は14兆4,072億円、対総資産比率は25.0%となっており、高水準を確保しています。

実質純資産額

(単位:億円)

14兆4,072億円

	令和3年度末	令和4年度末	増減
実質純資産額	167,187	144,072	△23,115
対総資産比率	28.7%	25.0%	△3.7%

▶ 実質純資産額

実質純資産額とは、実質的な債務超過かどうかを判定するための基準です。

具体的には、「時価評価した資産の額」から「負債から自己資本とみなされるもの(異常危険準備金、価格変動準備金など)を除いた額」を控除して算出します。

基礎利益

令和4年度のJA共済連の基礎利益は、費差損益、利差損益、危険差損益ともに減少し、3,724億円となっています。

(単位：億円)

基礎利益

3,724億円

	令和3年度	令和4年度	増減
基礎利益	5,147	3,724	△1,422
費差損益	877	829	△47
利差損益	1,081	913	△167
危険差損益	3,187	1,980	△1,206

※ 令和4年度から基礎利益の計算方法について一部変更（為替にかかるヘッジコストを基礎利益の算定に含め、投資信託の解約損益を基礎利益の算定から除外）しています。また、令和3年度の数値についても、変更後の取扱いに基づき再計算しています。

▶ 基礎利益

基礎利益とは、共済事業本来の期間損益を示す指標で、具体的には、損益計算書の「経常利益」から、有価証券売却損益などの「キャピタル損益」および異常危険準備金取崩額などの「臨時損益」を除いて算出されます。

共済事業は、長期間にわたってご契約者の皆さまへの保障を確実に履行するために、共済掛金（予定事業費率、予定利率、予定死亡・予定危険率）の設定にあたって、あらかじめ将来のリスクに備えて適度の安全性を確保しています。このため、この予定の率と決算による実績との差額が発生することになります。

資産の自己査定

資産の自己査定とは、保有する資産について自らそれぞれのリスクを検証・分析し、そのリスクの度合と回収可能性に応じて償却・引当を行い、経営の健全性・透明性を確保していくためのルールです。

JA共済連では、農林水産省が公表している「共済

事業実施機関に係る検査マニュアル」に準拠した「資産査定規程」「償却・引当規程」を設定しています。この規程に基づき、資産全体（仮払・繰延消費税、繰延税金資産などを除きます。）に対して適正な自己査定と厳格な償却・引当を実施しています。

▶ 分類区分の定義および分類区分ごとの償却・引当の概要

分類区分	定義	償却・引当の概要
非分類	回収の危険性または価値の毀損（きそん）の危険性について問題のない資産	貸付金などについて、一般貸倒引当金（貸付金残高×予想損失率）を計上 ※ 予想損失率は、貸倒実績率に基づき、債務者の区分に応じて算出
Ⅱ分類	債権確保上の諸条件が十分に満たされないため、あるいは、信用上疑義がある等の理由により、その回収について通常の場合を超える危険を含むと認められる債権などの資産	
Ⅲ分類	最終の回収または価値について重大な懸念があり、従って、損失の可能性が高いが、その損失額について合理的な推測が困難な資産	貸付金などについて、個別貸倒引当金等（債務者の区分に応じた必要額）を計上
Ⅳ分類	回収不可能または無価値と判定される資産	個別貸倒引当金を計上または直接償却

▶ 令和4年度決算における自己査定結果

査定対象資産62兆9,926億円のうち、非分類資産については62兆9,672億円（構成比99.96%）となっています。一方、分類資産は253億円であり、うちⅡ分類は236億円、Ⅲ分類は13億円、Ⅳ分類は3億円となっています。

▶ 令和4年度決算における償却・引当結果

非分類およびⅡ分類資産に対する引当額として、一般貸倒引当金を19億円、Ⅲ分類資産に対する引当額として、個別貸倒引当金等を10億円計上しています。Ⅳ分類資産については、その全額（3億円）を直接償却により処理しています。

責任準備金の十分な積み増し

JA共済連では、将来の共済金の支払いに備え、法令等で定められている積立方式のうち最も積立水準が高い方式(平準純共済掛金式)による責任準備金の積み立てを行っています。

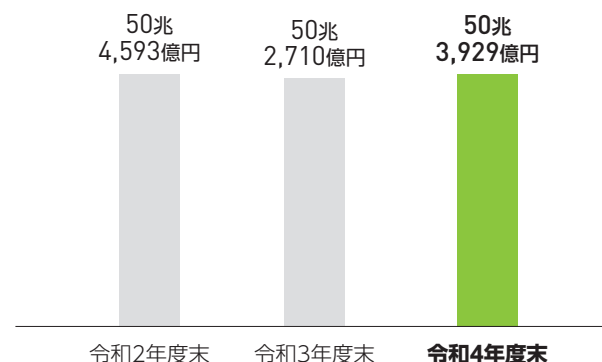
さらに、「逆ざや」に対応し、一層の健全性を確保するために、一部の生命総合共済契約および建物更生共済契約を対象に責任準備金を追加して積み立てています。

責任準備金

50兆3,929億円

また、責任準備金として毎年、異常危険準備金の積み増しを行うとともに、再保険も実施し、大規模自然災害などに備えています。

▶ 責任準備金の推移



資金調達の取り組み

JA共済連では、財務基盤を充実させ、経営基盤をより一層強固なものとするため、円建劣後ローンによる資金調達を実施しています。

▶ 格付けの状況

JA共済連は、日本格付研究所(JCR)と格付投資情報センター(R&I)から格付けを取得しており、極めて高い信用力を有していると評価されています。

(令和5年7月27日現在)

格付会社	格付内容	格付	見通し
日本格付研究所(JCR)	長期発行体格付	AA+	安定的
格付投資情報センター(R&I)	発行体格付	AA	安定的

(注) 格付会社の判断により、将来的に変更となることがあります。

再保険の取り組み

再保険とは、共済団体や保険会社が引き受けている共済・保険契約上の責任(リスク)の一部(または全部)を、国内外の他の保険会社等に移転する保険取引のことをいいます。

JA共済連では、大規模自然災害が発生した場合でも健全な経営が維持できるよう、リスク分散の一環として再保険を実施しています。

なお、再保険先の選定については、第三者機関による信用力(格付け)に関する情報を総合的に評価・判断し、契約条件等も考慮したうえで慎重に選定しています。

また、再保険契約締結後も、再保険先の格付け等を継続的にモニタリングし、信用リスクを管理しています。

保障とサービスの一体的な提供

JA共済では、組合員・利用者・地域住民の皆さまに「切れ目なく寄り添う」ことを基本コンセプトとし、ニーズに対応した保障提供に加え、健康増進、防災・減災、再発防止等のサービス提供を中心とした新たな付加価値の提供に取り組んでいます。

- 1 健康増進に資する仕組み・サービスの一体的展開
- 2 組合員・地域住民との繋がりを活用した健康増進に資するサービス(イベント等)の展開
- 3 事故の未然防止・再発防止に資する仕組み・サービスの一体的展開

▶ 保障とサービスの一体的提供



JA共済の保障ラインナップ

JA共済の使命は、組合員・利用者の皆さまが不安なく暮らせるよう、生活を取り巻くさまざまなリスクに対して幅広く保障するよう努めることです。

万一のときや病気、ケガ、老後などに備える「ひと」の保障。火災はもちろん、地震や台風などさまざまな自然災害に備える「いえ」の保障。そして自動車事故による賠償やケガ、修理に備える「くるま」の保障。この「ひと・いえ・くるまの総合保障」を通じて、それぞれの目的やライフプランに応じて充実した保障を提供し、皆さまの毎日の暮らしをバックアップしていきます。

保障の目的	社会人スタート	結婚	お子さまの誕生	住宅購入	お子さまの進学	お子さまの結婚・独立	セカンドライフ	
	20歳代		30歳代	40歳代	50歳代	60歳代		
ひと	万一のとき、ご家族のために生活費を残してあげたい方	一生涯の万一保障	終身共済					
	病歴や健康状態に不安がある方	ご加入しやすい万一保障	引受緩和型終身共済					
	まとまった資金を活用したい方	一生涯の万一保障	生存給付特則付一時払終身共済(平28.10)					
	一定期間、しっかりと万一のときに備えたい方	共済期間が選べる万一保障	定期生命共済					
	お手頃な共済掛金でライフステージに応じた万一保障を準備したい方	ライフステージに応じて備える万一保障	定期生命共済(逓減期間設定型) みちびき					
	貯蓄しながら万一のときにも備えたい方	万一保障と貯蓄	養老生命共済					
	病気やケガに備える医療保障がほしい方	充実の医療保障	医療共済 メディフル					
	病歴や健康状態に不安がある方	ご加入しやすい医療保障	引受緩和型医療共済					
	がんに手厚く備えたい方	充実のがん保障	がん共済					
	身体に障害を負って働けなくなったときのリスクに備えたい方	就労不能の保障	生活障害共済 働くわたしのささエール					
	身近な生活習慣病のリスクに備えたい方	特定疾病の保障	特定重度疾病共済 身近なリスクにそなエール					
	一生涯にわたる認知症の不安に備えたい方	一生涯の認知症保障					認知症共済	
	一生涯にわたる介護の不安に備えたい方	一生涯の介護保障					介護共済	
	まとまった資金を活用したい方	一生涯の介護保障					一時払介護共済	
	老後の生活資金の準備を始めたい方	老後の保障	予定利率変動型年金共済 ライフロード					
お子さま・お孫さまの教育資金を準備したい方	お子さま・お孫さまの保障	こども共済						
いえ	火災や自然災害による建物・家財の損害に備えたい方	建物や家財の保障	建物更生共済 むてきプラス・My家財プラス					
	自動車事故による賠償やケガ、修理に備えたい方	くるまの保障	自動車共済 クルマスター					
農業者向け	農業において発生するさまざまなリスクに備えたい方	農業における賠償リスクを保障	農業者賠償責任共済 ファーマスト					

*ほかにも「一時払終身共済(平28.10)」「傷害共済」「火災共済」「自賠責共済」「賠償責任共済」等をご用意しています。

*農業者の皆さまに対する保障については、P.27以降に記載しています。



一人ひとりにあった保障で、ご自身やご家族の暮らしをサポートします

生命総合共済 なないろデザイン

年齢、性別、家族構成などによって、不安や心配事も人それぞれ。そこで、ご自身に必要な7つの“保障分野”を組み合わせ、一人ひとりに合った安心をご提供するのが、「生命総合共済 なないろデザイン」です。さまざまなリスクにトータルに備えられ、ライフステージの変化に応じて保障の組み合わせも見直せます。



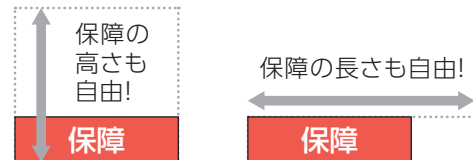
- 7つの“保障分野”を自由に組み合わせ、あなたにぴったりの保障がデザインできます。



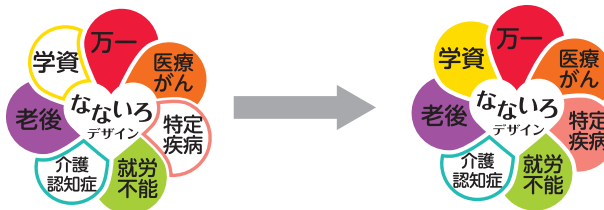
病気やケガ、老後の資金などにも、バランスよく備えられました!



- 保障の高さ(保障金額)・長さ(保障期間)を自由に設定できるためライフステージや備えの目的に応じて最適な保障を準備できます。



- ライフステージの変化に応じて保障内容を見直すことができます。



結婚して子どもも生まれたので家族のために保障内容を充実させました!



万一の備え

死亡のリスクに備えるための共済

終身共済

一生涯にわたって備えられる万一保障

- 一生涯にわたって万一の保障を確保できます。
- 死亡時だけでなく、所定の重度要介護状態や第1級後遺障害の状態も保障します。
- 所定の障害状態になったときに、それ以降の共済掛金は「共済掛金払込免除」によりいただきません。



生存給付特則付一時払終身共済(平28.10)

一生涯の万一保障に生前贈与の機能をプラス!加入のしやすさも魅力です

- 生存給付金を生前贈与としてご利用いただけます。
- 死亡共済金を相続対策にご利用いただけます。
- 医師による診査は必要なく、簡単な告知でお申し込みいただけます。



定期生命共済

お手頃な共済掛金で万一保障をしっかり準備

- お手頃な共済掛金で、ライフプランに合わせて必要な期間が選べます。
- 死亡時だけでなく、所定の重度要介護状態や第1級後遺障害の状態も保障します。
- 所定の障害状態になったときに、それ以降の共済掛金は「共済掛金払込免除」によりいただきません。



定期生命共済(通減期間設定型) みちびき

お手頃な共済掛金でライフステージに応じた必要十分な万一保障をしっかり準備

- ライフステージに応じて保障金額を通減させることで、お手頃な共済掛金で必要十分な保障を準備できます。
- 通減開始時期は一定の範囲内で任意に設定可能であり、柔軟な保障設計ができます。
- 死亡時だけでなく、所定の重度要介護状態や第1級後遺障害の状態も保障します。
- 所定の障害状態になったときに、それ以降の共済掛金は「共済掛金払込免除」によりいただきません。



養老生命共済

貯蓄しながら備えられる万一保障

- 貯蓄しながら備えられる万一の保障です。
- 死亡時だけでなく、所定の重度要介護状態や第1級後遺障害の状態も保障します。
- 所定の障害状態になったときに、それ以降の共済掛金は「共済掛金払込免除」によりいただきません。



医療の備え

入院・手術のリスクに備えるための共済

医療共済 メディフル

日帰り入院からまとまった一時金が受け取れる充実の医療保障

- 日帰り入院*からまとまった一時金が受け取れます。入院費用への備えはもちろん、その前後の通院・在宅医療などにも活用できます。
※日帰り入院は、入院基本料の支払いの有無などにより判断されます。
- 一生保障や先進医療保障など、ライフプランに合わせて自由に設計できます。
- 健康を維持した場合に健康祝金が受け取れます。
*健康祝金支払特則を付加した場合で、契約日以降3年ごと(共済期間が10年更新の場合は5年ごと)に治療共済金が支払われた入院をしなかった場合。



がんの備え

がんのリスクに備えるための共済

がん共済

「生きる」を応援する充実のがん保障

- 上皮内がんを含むさまざまな「がん」や脳腫瘍の診断時や再発時、入院・手術などを幅広く保障します。
- がんの長期化や再発時にがん治療共済金を受け取れます。
- 入院1日目から保障し、長期入院も日数無制限で保障しますので、安心です。
- ご意向にあわせて、保障内容を選べます。



就労不能の備え

身体の障害による収入の減少や支出の増加に備えるための共済

生活障害共済 働くわたしのささエール

働けなくなるリスクに備えられる安心の保障

- 公的な制度である身体障害者手帳制度と連動したわかりやすい保障です。
- 身体障害状態を幅広く保障します。原因が病気かケガかを問わず保障します。
- 一時的な支出に備えられる「一時金型」、収入の減少や支出の増加に備えられる「定期年金型」のプランを選べます。



特定疾病の備え

身近な生活習慣病のリスクに備えるための共済

特定重度疾病共済 身近なリスクにそなエール

身近な生活習慣病のリスクに備える保障

- 三大疾病(がん・急性心筋梗塞・脳卒中)に加えて、三大疾病以外の「心・血管疾患」や「脳血管疾患」、さらには「その他の生活習慣病」まで幅広く保障します。
- 4つの疾病区分ごとに、共済期間を通じてそれぞれ1回、最大で4回共済金をお支払いします。
- 継続的な治療によるさまざまな経済的負担に備えられるよう、まとまった一時金で受け取れます。



認知症の備え

認知症のリスクに備えるための共済

認知症共済

一生涯にわたって備えられる認知症の保障

- 認知症はもちろん、認知症の前段階の軽度認知障害(MCI)まで幅広く保障します。
- 認知症の予防・早期発見から発症後までをトータルでサポートする各種サービスがご利用いただけます。
- 簡単な告知でご加入いただけます。



介護の備え

介護のリスクに備えるための共済

介護共済

一生涯にわたって備えられる介護保障

- 一生涯にわたる介護保障で不安の高まる高齢期も安心です。
- 介護共済金(一時金)はご自宅の改修などの初期費用に役立てられます。
*「共済金年金支払特約」の付加により年金方式でお受け取りいただくことも可能です。
- 公的介護保険制度に連動したわかりやすい保障です。



老後の備え

老後の生活資金に備えるための共済

予定利率変動型年金共済 ライフロード

自分で準備する将来の年金保障

- 毎年(毎月)の共済掛金で老後の生活資金が積立感覚で準備できます。また、年金額の増加が期待でき、一度増加した年金額は減りません。
*予定利率の推移によっては、年金額が増加しない場合があります。
- 個人年金保険料控除が受けられます。
*所定の条件を満たし、税制適格特約付契約の場合
(令和5年1月末現在の法令等に基づき記載しています。)
- 医師による診査は必要なく、簡単な告知でお申し込みいただけます。
- 加入年齢・払込終了年齢・年金支払開始年齢に応じた柔軟な保障設計ができます。



学資金の備え

教育資金を準備しつつ、万一にも備えるための共済

子ども共済

お子さま・お孫さまの教育資金の備えと万一保障

- 学資金のお受け取りは、進学時期に合わせた中学・高校・大学プランからお選びいただけます。
- 高い貯蓄性と保障がバランスよく備わっていて、効率的に資金準備できます。
- ご契約者(親族)がもしものとき※、その後の共済掛金はいただきません。
※「もしものとき」とは、死亡、所定の第1級後遺障害の状態、所定の重度要介護状態または災害による所定の第2級～第4級の後遺障害の状態になられたときをいいます。
* 共済掛金払込免除不担保特則を付加する場合を除きます。
- お子さま・お孫さまのために75歳までご契約いただけます。
* ご契約者の年齢や健康状態に関わらずご契約いただけるプランもございます(共済掛金払込免除不担保特則を付加する場合に限ります)。



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

*「生命総合共済 なないろデザイン」には、ほかにも「引受緩和型終身共済」「引受緩和型医療共済」「一時払終身共済(平28.10)」「一時払介護共済」があります。



火災はもちろん、台風や地震などの自然災害も幅広く保障します
建物更生共済 むてきプラス・My家財プラス

- 火災や盗難などの事故はもちろん、台風や地震などの自然災害による損害も、しっかり保障します。
- 掛捨てではありません。保障期間満了時に、満期共済金をお支払いします。
- ご契約された建物や家財について発生した火災や自然災害によって、ケガをされたり、死亡されたりしたときには、傷害共済金をお支払いします。



自動車事故のさまざまなリスクに、充実の保障とサービスでお応えします
自動車共済 クルマスター

- 自動車事故による相手方への賠償保障はもちろんのこと、ご自身やご家族の乗車中や歩行中等の自動車事故による損害を過失割合に関係なく保障。さらに、お車の損害や付随的に発生する諸費用まで幅広く保障します。
- JAの自賠償共済とセットでご加入の場合に対人賠償保障の共済掛金が割引になる自賠償共済セット割引や、農業用利用の貨物車の場合に共済掛金が割引になる農業用貨物車割引、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構が行う安全性検査に合格した農業用自動車の場合に共済掛金が割引になる農業用安全自動車割引があります。
- 無事故を継続すると最大20等級までの無事故割引等級が適用され、共済掛金が最高63%まで割引かれます。また、保険会社等から乗りかえた場合についても、等級を引き継ぐことができます。
- 24時間・365日、フリーダイヤルで自動車事故の受付やアドバイスをを行うほか、故障時の応急対応やレッカー移動も24時間体制で実施しています。
- 自動車事故によりお車の修理が必要となったご契約者さまに対し、JA共済では全国約1,600工場(令和5年6月末時点)が加盟する指定工場ネットワーク(愛称:JARIC)を有しており、質の高いさまざまなサービスをご提供しています。



農業において発生するさまざまな賠償リスクを幅広く保障します
農業者賠償責任共済 ファーマスト

- 農業に関する幅広い賠償責任をカバーします。
- 農地面積と支払限度額に基づく、わかりやすい共済掛金設定です。
- 自動継続のため、継続手続き不要です。



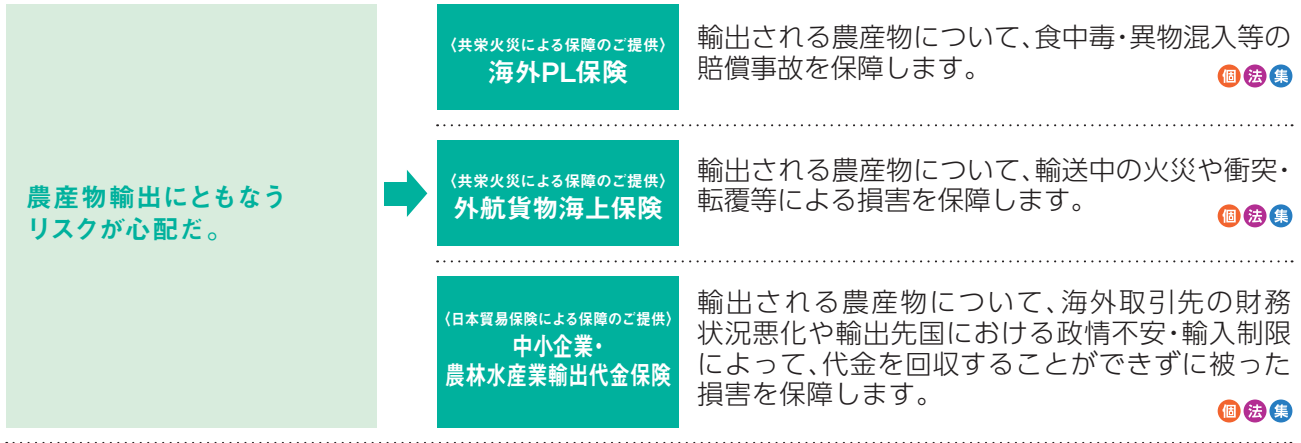
農業者の皆さまに対する保障

JA共済と共栄火災では、農業者の皆さまが安心して農業経営に専念し、安定的な事業・生活基盤を築いていただけるよう、一体的に保障提供を行っています。

▶ 主な保障ラインナップ

個 個人農家 法 農業法人 集 集落営農組織 活 活動組織等

経営者が万一のときの、 運転資金、事業承継資金の 確保が心配だ。	<p>定期生命共済 (90・99歳満了型)</p> <p>定期生命共済 (更新型)</p>	ご自身の退職金の準備や、万一のときの事業承継をスムーズに行えます。 法
退職金財源の確保が心配だ。	<p>養老生命共済 (福利厚生プラン)</p>	役員・従業員一人ひとりの退職金財源等の資金準備をスムーズに行えます。 法
病気やケガによる身体障害で、 これまでのように働けなくな ったときの生活が心配だ。	<p>生活障害共済 働くわたしの ささエール</p>	病気やケガによる身体障害が残るとき、収入の減少や治療費等の支出の増加に備えられます。 ※ただし、 法 は一時金型タイプに限ります。 個 法
農作業中のケガが心配だ。	<p>農作業中傷害共済 特定農機具傷害共済</p>	農作業中のケガや農機具使用中のケガを保障します。 個 法 集
活動組織等の農地維持活動・ 資源向上活動中におこる ケガや事故が心配だ。	<p>イベント共済 (環境保全プラン)</p>	「多面的機能支払交付金」事業に基づく活動組織等の活動中におけるケガや賠償事故を保障します。 活
台風や火事による倉庫、畜舎、 堆肥舎などの損害が心配だ。	<p>建物更生共済 むてきプラス</p> <p>建物 特定建築物</p>	倉庫や畜舎、堆肥舎等が台風等の自然災害や火災等により壊れてしまった場合に保障します。 個 法 集
空き巣等による通貨や 預貯金証書の盗難が心配だ。	<p>建物更生共済 むてきプラス</p> <p>家財</p> <p>建物更生共済 むてきプラス</p> <p>営業用什器備品</p>	住宅内の家財が自然災害や火災等により壊れた場合に保障することに加えて、生活用の通貨や預貯金証書の盗難の場合に保障します。 個 事務所や店舗の営業用什器備品が自然災害や火災等により壊れた場合に保障することに加えて、営業用の通貨や預貯金証書の盗難の場合に保障します。 個 法 集
事故によるトラクター等の 農業用の自動車の 損害が心配だ。	<p>自動車共済</p>	トラクター等の農業用の自動車や軽トラック等の自動車による賠償事故、運転者等のケガ、衝突・接触・盗難等によるご契約のお車の損害を保障します。 個 法 集
農業にともなう 賠償事故が心配だ。	<p>農業者 賠償責任共済 ファーマスト</p>	農作業中の農薬飛散等の施設リスクをはじめ、食中毒等の生産物リスクや預かった農機具等に対する保管物リスクへの賠償事故を包括的に保障します。 個 法 集
農業経営の大規模化や 法人化、6次産業化にともなう リスクが心配だ。	<p>(共栄火災による保障のご提供) 農業応援隊</p>	農業にともなう賠償事故への保障に加えて、加工品の回収リスク、労務管理リスク、休業リスク等、農業経営の大規模化や法人化、6次産業化にともなうリスクを包括的に保障します。 個 法 集



■ 株式会社日本貿易保険との業務提携について

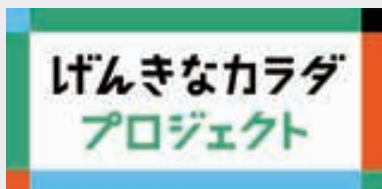
JA共済連は、農産物輸出を行う農業者の皆さまへの支援を強化する観点から、平成29年3月より日本貿易保険と業務提携しています。JAの組合員の皆さまは、JA共済連の紹介を受けて、中小企業・農林水産業輸出代金保険に加入する場合、保険料が10%割引となります。(事前にJA共済連から日本貿易保険への連絡が必要です。)

組合員・利用者・地域住民の皆さまへのサービスの提供

JA共済では、組合員・利用者・地域住民の皆さまの「げんきなカラダ」づくりを総合的にサポートする取り組み「げんきなカラダプロジェクト」を令和3年4月から開始しています。

令和5年4月からは、防災・減災、再発防止に向けた取り組みとして、組合員・利用者・地域住民の皆さまの安心・安全な暮らしをサポートする取り組み「あんしんくらしプロジェクト」を新たに開始しました。

この2つのプロジェクトを通じて、皆さまの豊かな生活づくりをサポートしていきます。



皆さまの健康増進、げんきなカラダづくりをサポートするプロジェクトです。



皆さまの安心・安全な暮らしをサポートするプロジェクトです。



2つのプロジェクトで、豊かな生活づくりをサポート

げんきなカラダプロジェクト

「げんきなカラダプロジェクト」は、「げんきを一緒につくる」をコンセプトに、地域の暮らしを支えるJAの総合事業の強みを最大限に活かせるよう、JAやJAグループ各団体と連携した取り組みを進めるほか、ヘルスケアに関する有用なサービスを展開する各企業・団体とも協業した活動を展開しています。



健康増進イベントの様子



オンラインウォーキングイベント「げんきなカラダWALK」

あんしんくらしプロジェクト

「あんしんくらしプロジェクト」は、「いえ・くるま・農業」分野を中心に、防災・減災、再発防止に向けて、組合員・利用者・地域住民の皆さまの安心・安全な暮らしをサポートする取り組みです。

いえ分野	家の状態の理解、防災・防犯への取り組みをサポートすることで、災害時の被害の軽減や早期復旧につなげ、強固な家づくり(安心・安全な住まいでの暮らし)に寄与します。
くるま分野	認知機能を含めた運転技能の向上や自動車の状態に対する理解、自動車事故・盗難のリスク低減に関する取り組みをサポートすることで、安心・安全なカーライフの実現に寄与します。
農業分野	農業経営に関するリスクの理解、予防・対策への取り組みをサポートすることで、災害や事故時の被害軽減や再発防止につなげ、安定した農業経営に寄与します。

提供サービス

■ 「げんきなカラダづくり」や「安心安全な暮らし」に役立つサービスを提供

ご契約者の皆さまに向けて、健康増進や防災・減災等に役立つ各種サービスを提供しています。


■ 健康増進や防災・減災等に役立つ様々な情報を提供

ご契約の有無を問わず、様々なお役立ち情報をお届けし、皆さまの健康増進や防災・減災等に向けた取り組みをサポートします。

■ 参加型イベントを開催


オンラインとリアルで開催する様々なイベントを通じて、皆さまが毎日楽しく過ごせるように応援しています。令和4年度にはオンラインウォーキングイベント「げんきなカラダWALK」を開催しました。イベントにはどなたでもご参加いただけます。

▶ **げんきなカラダプロジェクトの提供サービス例**

	健診結果チェック	健康診断結果を入力するだけで、現在のリスク年齢や将来の入院・疾病リスク等の確認が可能なサービスを無料で提供しています。
	食事管理アプリ	食事管理アプリのJA共済オリジナル版を無料で提供しています。
	セルフ式検査	ご自宅で手軽に腸内環境などをチェックできる郵送検査キットを優待価格で提供し、ご自身の健康状態への意識向上をサポートします。
	JA共済の脳トレ	脳研究の第一人者である川島隆太博士監修のJA共済オリジナルの脳トレーニングプログラムを無料で提供しています。
	MCIスクリーニング検査の取扱施設紹介	認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)のリスクを判定する血液検査が受けられる医療機関を紹介します。また、検査受診後、検査提供会社から受診特典を提供します。
	運動トレーニングサービス	オンラインで受講可能な運動プログラムを優待価格で提供しています。「頭と体の運動教室」、「健康づくりセミナー」、「健康チェック」がパッケージ化されたプログラムで認知機能の維持・向上に向けた健康づくりをサポートします。
	見守りサポート	ご契約者本人の見守りやご家族のサポートのために、もしもの時に駆けつけサービスが利用できるホームセキュリティサービスや、携帯端末での位置検索が可能なサービスを優待価格で提供しています。

※サービスのご利用には所定の条件があります。

▶ **あんしんくらしプロジェクトの提供サービス例**

	住宅の修理・リフォーム業者紹介サービス	運営会社独自の加盟審査基準をクリアした住宅の修理・リフォーム業者を紹介しています。成約いただいた対象者には、成約金額に応じてJA共済用の特典を提供しています。	
	住宅診断サービス	中立的な専門家が住宅診断(ホームインスペクション)を行う調査・アドバイスサービスを提供しています。成約いただいた対象者には、成約金額に応じてJA共済用の特典を提供しています。	
	ホームセキュリティサービス	自宅と暮らしを守るための、ホームセキュリティサービスを優待価格で提供しています。	
	くるま (Car) icon	車両・農機等盗難防止サービス	車両・農機等の盗難を防止するため、防犯カメラによるセキュリティサービスを優待価格で提供しています。
	農業者向け (Farmer) icon	安全性の高い農機紹介	サービス専用ホームページにおいて、自動車共済「農業用安全自動車割引」の対象となる安全性の高い農機を紹介しています。

※サービスのご利用には所定の条件があります。

詳しくはサービス専用ホームページをご確認ください。

<https://service.ja-kyosai.or.jp/>



農業者の皆さまへの取り組み

JA共済では、「農業リスク診断」を通じて、農業経営を取り巻くリスクの“見える化”を図るとともに、リスクの回避・軽減に向けた対策をご提案しています。

農業リスク診断

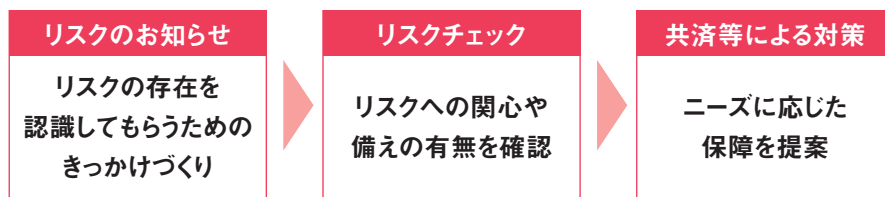
農業経営の大規模化・法人化、6次産業化による多角化などの農業構造の変化にともない、農業を取り巻くリスクは増大・多様化しています。

このような農業環境の変化を踏まえ、JA共済では、農業者の皆さまに対して、農業経営を取り巻くリスクの点検と、それらのリスクへの対策状況の確認を行う「農業リスク診断」をJAの営農部門とも連携して展開しています。

「農業リスク診断」を通じて明らかになったリスクに対しては、JA共済と共栄火災が一体となって対策のご提案を行っています。

また、JA共済ホームページ上の「農業リスク診断サイト」でも簡易的な農業リスク診断ができます。

〈農業リスク診断のイメージ〉



農業リスク診断システム画面



農業リスク診断サイト画面

農作業事故の未然防止活動

JA共済では、「事故が起こった際の保障の提供」だけでなく、「農作業事故の未然防止」をリスク対策の両輪と位置付け、農業者の皆さまの安全確保、リスク軽減・回避につながる活動に取り組んでいます。

具体的には、事故の発生実態を紹介する動画「明日も農業をつづけるために。」や安全対策をお知らせする資料「安全対策 これだけは」を制作し、情報発信を行っています。

また、平成29年度、令和3年度に共済金支払データに基づく農作業事故の要因・傾向の分析を行い、その

分析結果をJA共済ホームページにて公開しています。あわせて、当該データを農作業安全対策に取り組む行政機関や関係団体に提供し、共同利用を行っています。

さらに、令和2年度からは、農作業事故の未然防止を目的に、当事者の視点から農作業中の事故を疑似体験できる「農作業事故体験VR」を活用した学習プログラムを全国のJAにおける研修会やイベント、農業関連団体による講習会などで展開しています。



動画「明日も農業をつづけるために。」



(JA共済の地域貢献活動紹介ホームページにて公開)



資料「安全対策 これだけは」

農業者の皆さまへの情報提供

農業者の皆さまへ、JA共済のホームページ(農業者へのお役立ち情報サイト <https://www.ja-kyosai.or.jp/agri/>)において、「農業リスク診断」や「農業者の皆さまに対する保障」のご案内のほか、次のような情報提供を行っています。

▶ 異常気象等に対する各種対策事例

農業経営に大きな影響を及ぼす恐れのある異常気象について、そのリスクを回避・軽減するための各種情報・対策をご紹介します。

▶ 農作業事故に関する各種情報

多発する農作業事故について、JA共済連の共済金支払データに基づく要因・分析結果や安全対策等にかかる各種情報をご紹介します。

▶ 農産物輸出に関する各種情報

「農産物輸出固有のリスク」をご説明するとともに、農産物輸出に関する各種情報をご紹介します。

▶ 活動組織などの皆さまに対する保障

活動組織、広域活動組織の皆さまに対する保障についてをご紹介します。

ご契約者の皆さまへの取り組み

JA共済では、組合員・利用者の皆さまの理解および満足度を高め、一人ひとりのライフスタイルの変化やニーズにあった保障を提供するとともに、共済金をもれなくご請求いただくための取り組みを行っています。

お申し込みからご契約締結までの手続き

■ 意向把握・確認の実施

JA共済では、一人ひとりのニーズに合った共済にご加入いただけるよう、共済・保険のご加入状況やご意向を把握したうえで、ライフアドバイザー(LA)が最適なプランを作成し、ご説明するとともに、ご契約者さまのご意向に沿ったお申し込み内容であるかなどについて、お申し込みの前に改めてタブレット型端末機「Lablet's(ラブレッツ)」にてご確認いただけます。



Lablet's 画面イメージ

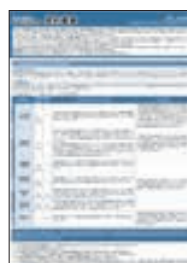
■ ご契約に関する重要な事項等の説明

JA共済では、「農業協同組合法」「消費者契約法」「金融サービスの提供に関する法律」などの法令に基づき、ご契約に関する重要な事項をご理解いただくために、「重要事項説明書(契約概要)」※1、「重要事項説明書(注意喚起情報)」※2、「ご契約のしおり・約款」※3等をお渡しして、説明を行っています。

生命総合共済および建物更生共済の重要事項説明書(注意喚起情報)について、ご覧になる方にとってわかりやすいものとなるよう改善を図っており、一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会®の認証を取得しています。



生命総合共済
重要事項説明書
(注意喚起情報)



自動車共済
重要事項説明書
(契約概要)



ご契約のしおり・約款



- ※1 「重要事項説明書(契約概要)」には、ご契約内容に関する重要な事項のうち、ご契約に際して特にご確認いただきたい事項を記載しています。
- ※2 「重要事項説明書(注意喚起情報)」には、ご契約に際してご契約者さまにとって不利益となる事項など、特にご注意いただきたい事項を記載しています。
- ※3 「ご契約のしおり・約款」は、冊子のお渡しにかえて、Web約款を選択することができます。「ご契約のしおり・約款」は次の2つの部分で構成されています。
 - ご契約のしおり: 約款の内容を読みやすく整理し、ご契約上の重要事項や共済金等の請求、手続き等について、わかりやすく説明しています。
 - 約款: ご契約のご加入からお支払いまでのいろいろなことをとりきめたものです。

■ 本人確認の実施

JA共済では、「犯罪による収益の移転防止に関する法律」に基づき、新規に共済にご加入される時、年金・満期共済金などをお受け取りになるときなどのお取引に際して本人確認を行っています。

■ **ご高齢の組合員・利用者の皆さまへ配慮した取り組み**

ご契約者さま・被共済者さま(所定の場合)がご高齢の場合は、ご提案時およびご契約の手続きを行う際に、ご親族の方に同席いただく対応を基本としております。

また、ご親族の方に同席いただくことが困難な場合は、ご親族の方へ電話等により契約の内容を説明させていただくなど、ご高齢のご契約者さま・被共済者さま(所定の場合)に対して、より丁寧な対応を行っています。

ご同席または電話等により契約の内容をご説明させていただいたご親族には、最終的な契約内容を知ることができるよう、令和5年度から、「高齢者対応親族用契約案内書(シーリングハガキ)」を送付します。

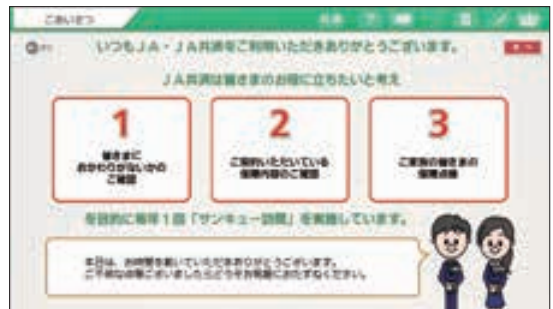
*「高齢者対応親族用契約案内書(シーリングハガキ)」の送付および個人情報の取扱いについて、ご親族の了承を得られた場合に送付します。

さらに、ご自身によるお手続きが困難になった場合に備えて、「指定代理請求人」をご指定いただくようご案内しています。

ご契約期間中の情報提供

■ **3Q活動**

JA共済では、一人ひとりに寄り添った保障の提供とアフターフォローの実現に向けて、組合員・利用者の皆さまに、これまでのJA共済のご利用に対して「感謝の気持ち(サンキュー)」をお伝えするとともに、3つの質問(Question) (「Q1ご家族の皆さまに病気やケガによる入院・手術などはありませんでしたか?」「Q2建物・家財などの被害はありませんでしたか?」「Q3ご家族の皆さまにおかわりありませんか?」)をさせていただいています。



タブレット型端末機(Lablet's)の3Q活動画面

■ **郵送によるご契約内容などのご案内**

「自分が加入している共済契約の現在の内容を知りたい」というニーズにお応えするために、JA共済フォルダーに登録いただいたご契約者さまへ、毎年5月頃にご契約内容などを記載した「フォルダー契約案内書」をお送りします。そのほかにも、ご契約内容により「共済掛金払込証明書」「満期のご案内」「生存給付金のお支払のご案内」など各種通知をお届けします。いずれも大切な内容ですので、必ずご確認くださいませようお願いします。

*Webマイページにご登録いただき、各種案内書のご連絡方法を「メールによるご案内のみを希望する。」としていただいた場合には、電子メールによりご案内いたします。

ご契約期間中

■ インターネットやアプリによるご契約内容などの確認

ホームページに各種共済の「ご契約のしおり・約款」を掲載しているほか、共済金をご請求いただく場合の手続きの流れなどを掲載しています。

また、Webマイページにご登録いただいたご契約者さまは、インターネットおよびJA共済アプリ上でご契約内容の確認、住所、電話番号、振替口座の変更、自動車共済の継続手続きや各種ご案内書の閲覧などができます。



JA共済アプリ



JA共済ホームページ

Webマイページでご利用いただける主なサービス

- ご契約内容の確認
- 住所、電話番号、振替口座の変更
- Web受付
- ご家族連絡先登録・第二連絡先登録
- 自動車共済の継続手続き
- 各種ご案内書の閲覧

共済金のご請求

共済金のご請求

■ 共済金のお支払い事由が発生した場合

共済金のお支払い事由が発生した場合には、ご加入先のJAにご連絡ください。共済金のご請求に必要な書類などをJAよりご案内します。

■ 共済金のご請求に関するご案内

共済金をもれなくご請求いただくため、ご加入時にお渡しする「ご契約のしおり」に、共済金のご請求に関する留意事項を掲載しています。

■ 自動車共済の事故などのご連絡

[※JAの営業時間内は、ご加入先のJAまでご連絡ください。]

自動車事故等の場合には

■ JA共済事故受付センター

ジコはクミアイ
 **0120-258-931**

24時間 365日 対応

[※JAの営業時間内でも下記の番号までご連絡ください。]

<日常生活賠償責任特約ご加入の皆さまへ>
 日常生活での事故等の場合には

■ JA共済日常生活事故対応センター

ニチヨウバイショウはクミアイ
 **0120-628-931**

【受付時間】9時～21時

■ JA共済アプリやインターネットを通じた被災や事故のご連絡(24時間・365日受付)

ご加入いただいている建物・家財などの被災のご連絡および自動車の事故や故障のご連絡は、JA共済アプリからも行っていただけます。また、建物・家財などの被災については、ホームページの建物事故通知Webフォームからもご連絡いただけます。

サポート体制

JA共済では、組合員・利用者の皆さまの多様化するニーズに確実に応えるため、専門的な知識を持つスタッフを養成しています。保障のご提案やアドバイスを行う「ライフアドバイザー（LA）」や窓口業務を行う「スマイルサポーター」が、皆さまのさまざまなご要望にお応えできるよう知識やスキルの向上を図っています。

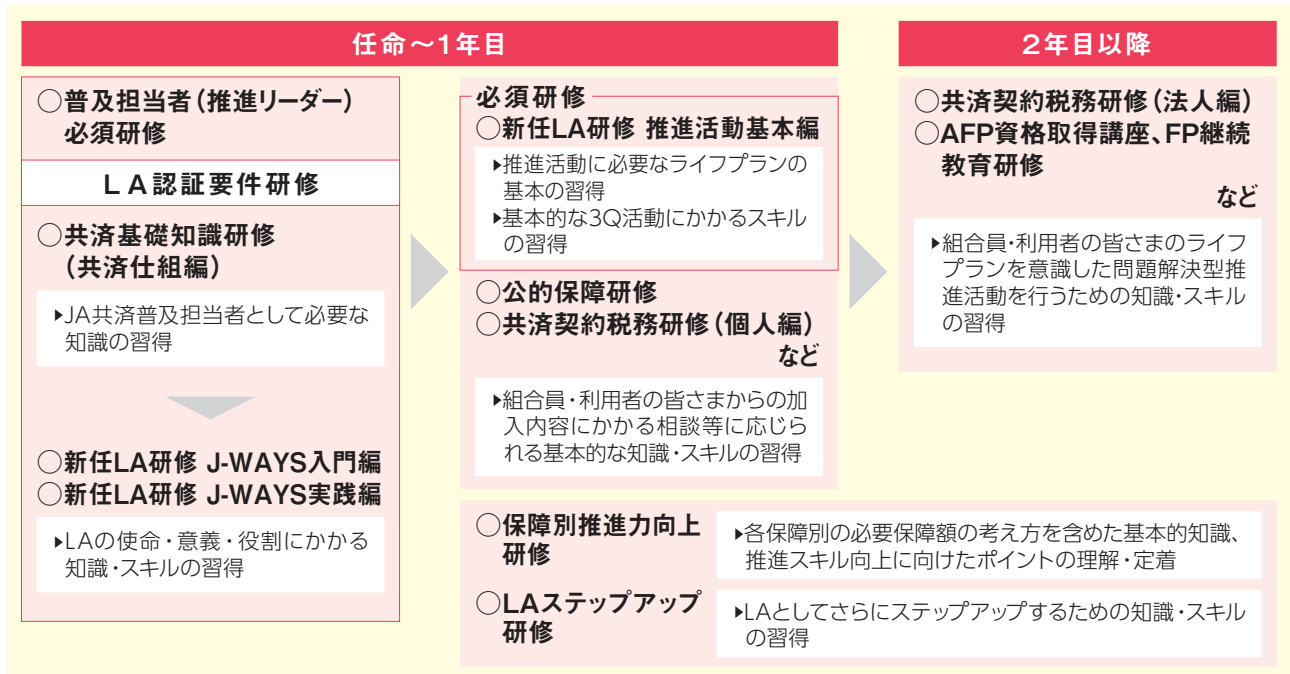
ライフアドバイザー（LA）

ライフアドバイザーは、組合員・利用者の皆さまとJAをつなぐ重要なパイプ役です。JAの顔として、さまざまなご相談にお応えするとともに、各種ご提案やアドバイス活動を行っています。

JA共済ではこれからも、皆さまのご要望にきめ細かく対応できるよう、研修・教育などによるライフアドバイザーの育成とレベルアップに努めています。



〈研修体系（全国標準モデル）〉



組合員・利用者の皆さまからのご相談にお応えし、頼りにしていただける活動を行っています。

近年、組合員・利用者の皆さまから専門的かつ広範囲なご相談が寄せられるようになってきています。

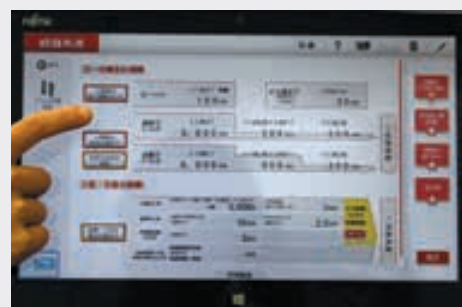
それにお応えするため、JA共済では、ファイナンシャルプランナー（FP）の資格の取得など、公的保障・税務・相続などの専門的知識の習得を促進しています。さらに健康・安全などに関するさまざまな情報を組合員・利用者の皆さまにご提供することにより、ライフプランニングのお役に立てるよう努めています。

▶ ^{ラフレックス} タブレット型端末機 (Lablet's) の活用

ライフアドバイザーが組合員・利用者の皆さまのお宅を訪問する際には、タブレット型端末機 (Lablet's) を使い、視覚的にわかりやすく、ご契約状況のご説明や各種情報提供を行っています。

また、あわせてLablet'sによる契約手続き等についても、平成28年度から段階的に展開しています。

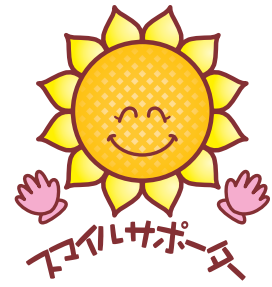
Lablet'sの活用により、より一層組合員・利用者の皆さまのご要望にお応えできるよう努めていきます。



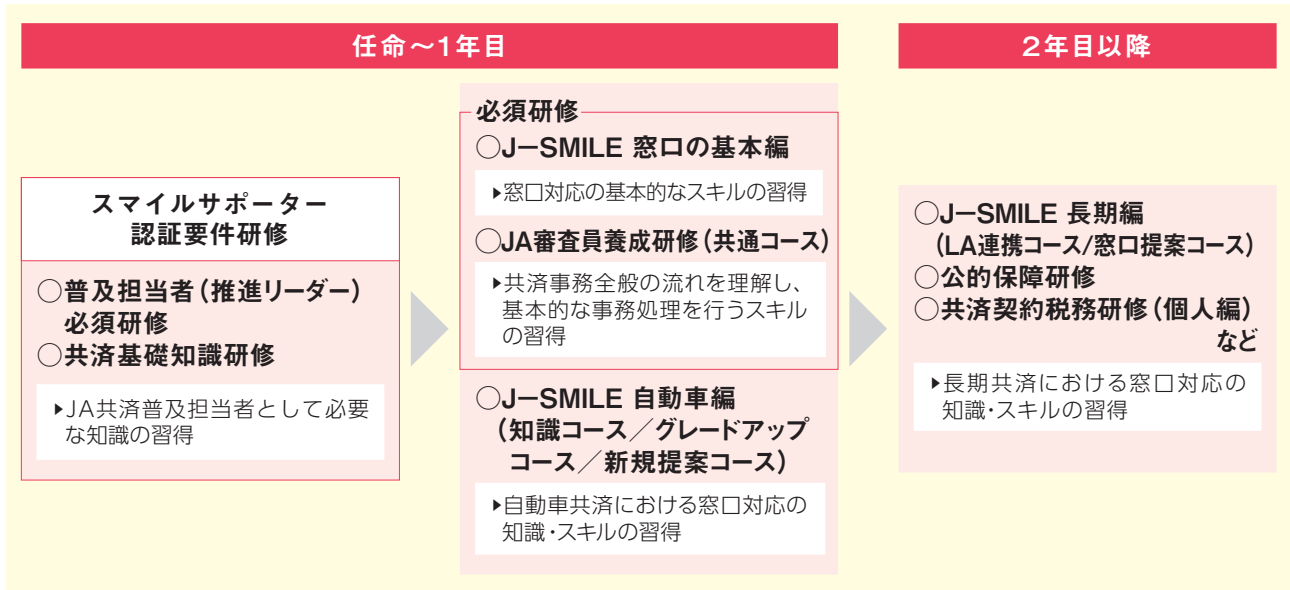
スマイルサポーター

スマイルサポーターは、住所変更や名義変更などの各種お手続き、入院時や罹災時の共済金のご請求、保障のご相談などについて、JA窓口を中心に対応しています。

JA共済では、満足度の向上をめざし、組合員・利用者の皆さまからのさまざまなご要望に窓口対応や電話対応などでお応えできるよう、スマイルサポーターの育成に努めています。



〈研修体系（全国標準モデル）〉



▶ より高いレベルの専門能力を持つ職員を養成するために

JA共済では、組合員・利用者の皆さまの多様化するニーズに確実に応えるため、より高いレベルの専門能力を持つ職員の養成に取り組んでいます。

■ 人材育成支援システム「CAREERSHIP（キャリアシップ）」

オンライン研修と集合研修の融合を可能とする人材育成支援システム「CAREERSHIP」を活用し、職員の専門知識習得やスキルのさらなる定着を図っています。

■ JA共済幕張研修センター

JA共済幕張研修センターは、千葉県千葉市にある幕張新都心の文教地区において、快適な研修受講環境を備えた研修施設として運営しています。一般研修のほか自動車研修、建物研修、医療費研修などJA共済事業としての総合的な研修が行える施設です。

少人数でのグループ討議や大人数での座学研修など、さまざまな研修スタイルに対応可能な教室と、生命総合共済、建物更生共済、自動車共済等にかかる専門的な知識・技法を効果的に学ぶことができる教室や展示室を備えています。



医療器具などを展示した医療展示室



建物更生共済の損害査定実習のための研修室



自動車共済の損害査定実習のための研修室

地域貢献の取り組み

～地域に暮らす皆さまが、健康で安心して暮らせるために～

JA共済が実施する保障の提供と地域貢献活動(病気や事故等の未然防止と万一の際の事後支援)は車の両輪の関係にあり、相互に機能することにより「安全・安心」の輪を広げてきました。

平成28年度からは「地域・農業活性化積立金」を創設し、従来から行っていた健康管理・増進活動や災害救援、交通事故対策活動などの「ひと」「いえ」「くるま」分野の地域貢献活動に加え、地域の実情に応じた「くらしや営農」に関するさまざまな活動に、JAと一体となって取り組んできました。平成28年度から令和4年度における各地域の活動実績は約3万3,000件にのぼり、イベントなどの活動には約1,400万人(のべ)の方々に参加していただきました。

これからも保障の提供と地域貢献活動を通じて地域との絆を強化し、組合員・地域住民の皆さまが住み慣れた地域で健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりに貢献していきます。

▶ JA共済の取り組み



くらし・営農

心の豊かさや絆の大切さを次世代へ伝えるための文化支援活動や生活支援活動、環境保全活動、農業経営に貢献するための農業振興活動に取り組んでいます。

- 農業振興活動
- 文化支援活動
- 生活支援活動
- 環境保全活動



ひと

元気な生活を送るために役立つ健康管理・増進活動をはじめ、介護・福祉活動など、助け合いの精神でさまざまな活動に取り組んでいます。

- 健康管理・増進活動
- 介護・福祉活動



いえ

万が一に備える防災・防火対策活動のほか、自然災害などの被害にあわれた際の救援活動から復興支援に至るまで、さまざまな活動に取り組んでいます。

- 災害救援活動
- 防災・防火対策活動
- 復興支援活動



くるま

交通事故のない社会をめざして交通事故の未然防止や交通事故被害者支援など、さまざまな活動に取り組んでいます。

- 交通事故未然防止活動
- 交通事故被害者支援活動

地域貢献活動トピックス

組合員・地域住民の皆さまが豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりをめざし、さまざまな取り組みを行っています。

■ 農作業事故の未然防止に向けた取り組み

農業における死亡事故の発生率は、他の産業に比べて高水準で推移しており、危険業種と言われる建設業を大きく上回る発生率となっています。

こうした状況を踏まえ、平成29年から令和2年までの共済金支払データを用いて、農作業事故の発生要因や事故傾向について分析し、JA共済ホームページ上に公開しました。

また、農作業事故の未然防止の取り組みをさらに強化するため、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構と共同で、農作業事故を当事者の視点から疑似体験する体験学習型プログラム「農作業事故体験VR」に、新たに「田植機 巻き込まれ・転落編」を開発し、合計8つのコンテンツをJA共済の地域貢献活動紹介ホームページ上に公開しました。



「田植機 巻き込まれ・転落編」VR映像

■ 高齢ドライバーの交通事故未然防止を支援

交通事故全体に占める高齢ドライバーの割合は依然として高い傾向にあることから、高齢ドライバーが安全に運転を継続できるよう、交通事故の未然防止に貢献できるサポカー（安全運転サポート車）の活用を広く促進する動画およびパンフレットを作成し、JA共済の地域貢献活動紹介ホームページ上に公開しました。



安全運転のために知っておきたい「サポカー」のこと 映像

■ 歩行者向けの交通事故未然防止を支援

交通死亡事故が一日の中で最も多く発生する薄暮時間帯・夜間の「自動車対歩行者」の交通事故削減に向け、自身の服装がドライバーからどのように見えるかをシミュレーションし、服装の見えやすさを診断できるソフトウェア「見えチェック」を（一財）トヨタ・モビリティ基金と共同開発しました。

また、明るい服装の着用や反射材の着用促進に関する動画等をJA共済の地域貢献活動紹介ホームページ上に公開しました。



服装「見えやすさ」診断「見えチェック」特設サイト

■ 自転車の交通事故未然防止を支援

令和5年4月1日施行の改正道路交通法により、すべての自転車乗用者のヘルメット着用が努力義務化されたことを受け、自転車乗用時のヘルメット着用の必要性を伝えるドラマ仕立ての動画「高齢者篇」「大人篇」「中高生篇」「小学生篇」を作成しました。

また、「ダイジェスト篇」「実験映像」のほか、世代別ごとにチラシ等を作成し、JA共済の地域貢献活動紹介ホームページ上に公開しました。



「自転車乗るならヘルメット」特設サイト



ヘルメット着用の有効性に関する検証実験の様子（実験映像）



くらし・営農 (農業振興／文化支援／生活支援／環境保全)

農業経営に貢献するために、農作業事故の未然防止活動、食育イベントや農業体験の開催支援、新たな担い手のための支援をはじめ、さまざまな農業振興活動に取り組んでいます。

また、心の豊かさ、地域社会との絆づくりを大切にするとともに、JA共済の理念である相互扶助(助け合い)の精神を伝えるための文化支援活動や生活支援活動、環境保全活動に取り組んでいます。

農作業中の事故を防ぐために

■ 農作業事故体験VRを活用した学習プログラムの展開

農作業事故の未然防止を目的に、当事者の視点から農作業中の事故を疑似体験できる「農作業事故体験VR」を活用した学習プログラムを全国のJAにおける研修会やイベント、農業関連団体による講習会などで展開しています。

「農作業事故体験VR」は、公益財団法人日本デザイン振興会が運営する「2020年度グッドデザイン賞」を受賞しました。



VR体験の様子



地域住民・次世代の子どもたちの文化・生活支援のために

■ 小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクールの開催

次世代を担う小・中学生の皆さんに、「相互扶助」と思いやりの大切さを伝えるとともに、書写教育に貢献することを目的に書道コンクールを、交通安全への意識を高め幅広く社会に呼びかけることを目的に交通安全ポスターコンクールを全国ならびに各都道府県にて開催しています。

令和4年度の第66回書道コンクール、第51回交通安全ポスターコンクールにはあわせて110万点を超える応募がありました。日本最大級のコンクールとなっており、何世代にもわたり多くの方にご応募いただいています。



農林水産大臣賞
中3 丸山 凧さん



内閣府特命担当大臣賞
小5 大平 咲奈さん

©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

■ JA共済プレゼンツ それいけ!アンパンマンミニショー&握手会の開催

「JA共済プレゼンツ それいけ!アンパンマンミニショー&握手会」では、一部のコーナーで食育をテーマとしたJA共済オリジナル絵本の配布や地元特産品の展示を行い、ミニショーへご来場いただいた親子に、楽しみながら地域の「食」と「農業」について考えるきっかけを提供しています。



ミニショー&握手会の様子

■ 早稲田大学への寄附講座の設置

次世代を担う学生に対し、農業の可能性や地域の課題、さらには地域におけるSDGsや農福連携の取り組み等について学ぶ機会を設けることで、農業、地域、ひいてはJAグループに対する関心を高めることを目的として、平成24年度から早稲田大学に寄附講座を設置しています。

※平成30年度～令和3年度は聖心女子大学にも寄附講座を設置。



フィールドワークの様子

■ 県域での主な取り組み

■ 食育イベント・農業体験の開催支援

健全な食生活を実現するために食農教育活動に取り組んでいます。

農業体験学習や親子料理教室は、小学校と連携した取り組みも多く、多様な組織と連携して実施することから、地域とのつながり強化にも貢献しています。



農業体験の様子

■ 農作業効率化の支援

農作業の軽労化・効率化支援を目的に、先進機器等(ドローンなど)を寄贈しています。

農作業時の負担軽減や作業時間の短縮を図ることで、農業者の所得増大・農業生産の拡大に貢献しています。



農業散布用ドローンの操作の様子

■ 農業高校等への支援

農業の担い手育成支援を目的に、農業大学や農業高校等に対し実習用の農業機械・機具などを寄贈しています。

学習環境の整備を図ることで、将来の農業後継者の人材育成に貢献しています。



農業高校等への実習用農業機械の寄贈



ひと(健康管理・増進／介護・福祉)

元気な生活を送るために役立つ健康管理・増進活動をはじめ、介護・福祉活動など、助け合いの精神でさまざまな活動に取り組んでいます。

元気な生活を送るために

■ レインボー体操の普及

JA共済オリジナルの健康体操です。

心臓に負担をかけないやさしい動きで、全身の血液の流れをよくする体操です。立っても、座っても、寝ていてもできますので、体力に自信のない方、お年を召した方にも安全に行っていただけます。いろいろな音楽にあわせて楽しく体を動かしながら、病気予防・健康づくりを推進しています。



レインボー体操の様子

■ 健康・介護ほっとラインの開設

生活習慣病予防や肥満などの健康相談、医療機関の情報提供、育児・介護などのご相談を専門スタッフがフリーダイヤルでお受けしています。

また、JA共済の地域貢献活動紹介ホームページより、病気・症状に加え、妊娠・出産や応急処置に関する情報、全国の医療機関などをWEBサイトから検索いただける「みんなの家庭の医学WEB版」もご覧いただけます。

■ ちょいムズチャレンジの開催

親子で体を動かす楽しさを体験していただく運動プログラムです。「幼児期運動指針」(文部科学省)に基づく「幼少期に身につけたい36の基本動作」のうち「なげる」「うつ」「ける」の3つの動作を中心に、ゲーム形式で遊びながら体験することができます。

健康・介護電話相談



0120-481-536

シアワセイチバン コンサルタント



無料 受付時間 24時間・365日 (ほっとちゃん)

看護師・介護支援専門員(ケアマネジャー)・医師
(精神科・心療内科を除く)・栄養士による親身な対応

●お名前は伺いませので安心してご利用ください。



ちょいムズチャレンジの様子

県域での主な取り組み

■ 介護・医療機器等の寄贈

介護・医療機器や検診車等を寄贈しています。
組合員や地域住民の皆さまの健康管理の意識付けや健康寿命の延伸、介護環境の改善に貢献しています。



車いすの寄贈

■ 介護イベント等の開催支援

認知症予防の講演や介護相談を行うなど、介護イベント等の開催を支援しています。
高齢化社会においても、組合員・地域住民の皆さまが、健康に安心して暮らせる地域社会づくりに貢献しています。



家族介護教室の様子

■ JA共済の宿泊保養施設の運営

健康管理・増進活動への支援機能として、全国9か所の宿泊保養施設を運営しています。

① 福島県・奥飯坂「摺上亭大鳥」※

〒960-0201 福島県福島市飯坂町字中ノ内24-3
TEL.024-542-4184 客室数:59室

② 富山県・雨晴温泉「磯はなび」※

〒933-0133 富山県高岡市太田88-1
TEL.0766-44-6161 客室数:50室

③ 石川県・柴山温泉「ホテル翠湖」※

〒922-0402 石川県加賀市柴山町し50
TEL.0761-74-5588 客室数:21室

④ 兵庫県・城崎温泉「あさぎり荘」※

〒669-6101 兵庫県豊岡市城崎町湯島876
TEL.0796-32-2921 客室数:35室

⑤ 和歌山県・南紀白浜温泉「癒しの宿クアハウス白浜」

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町3102
TEL.0739-42-4175 客室数:42室

⑥ 鳥取県・鳥取温泉「ホテルモナーク鳥取」※

〒680-0834 鳥取県鳥取市永楽温泉町403
TEL.0857-20-0101 客室数:108室

⑦ 島根県・玉造温泉「ホテル玉泉」※

〒699-0201 島根県松江市玉湯町玉造53-2
TEL.0852-62-0021 客室数:120室

⑧ 佐賀県・武雄温泉「ホテル春慶屋」※

〒843-0022 佐賀県武雄市武雄町大字武雄7407
TEL.0954-22-2101 客室数:24室

⑨ 宮崎県・日南海岸青島温泉「ホテル青島サンクマール」※

〒889-2164 宮崎県宮崎市大字折生迫7408
TEL.0985-55-4390 客室数:40室



※ JA共済連の子会社において営まれている宿泊保養施設です。



いえ (災害救援／防災・防火対策／復興支援)

万が一に備える防災・防火対策活動のほか、自然災害などの被害にあわれた際の救援活動から復興支援に至るまで、さまざまな活動に取り組んでいます。

災害救援、防災・防火のために

■ ザブトン教授の防災教室の開催

イス型の地震動体験装置「地震ザブトン」で過去に起こった地震のリアルな揺れを体験し、家具固定など日頃から地震に備えることの必要性を再認識していただく体験学習型プログラムを展開しています。



地震ザブトン体験の様子

■ 災害シートの無償配布*

自然災害などでお住まいが壊れてしまった方に、JAを通じて災害シートを無償で配布しています。

東日本大震災、熊本地震などでも災害シートをお配りし、災害からの復興に向けたサポートをしました。

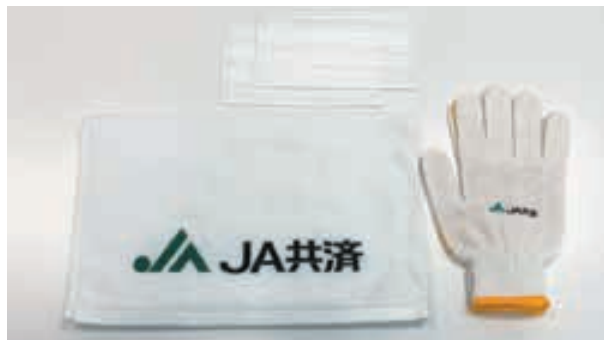


災害シート 大きさ:3.6m×5.4m(12畳)

■ 災害キットの無償配布*

自然災害などで被害を受けられた方に、JAを通じて災害キットを無償で配布しています。

令和4年8月豪雨(新潟県ほか)などで災害キットをお配りしました。



災害キット(マスク・軍手・タオル)

※JA共済のご契約者さまで一定の要件を満たす場合に限りです。

県域での主な取り組み

■ 防災用品等の寄贈

災害時に必要とされる給水タンクや携帯トイレ、テントなどの防災用品等を自治体などに寄贈しています。予期せぬ災害に平時から備えることで、安心して暮らせる地域社会づくりに貢献しています。



防災用テント



給水タンク



携帯トイレ

■ 緊急車両等の寄贈

広く地域住民の方々を守るため、消防自動車などの緊急車両等を寄贈しています。

有事の際に備えることで、安心して暮らせる地域社会づくりに貢献しています。



緊急車両の寄贈

震災からの復興を支援するために

■ 東北ユースオーケストラへの活動支援

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県・宮城県・福島県出身の子どもたちを中心に構成された東北ユースオーケストラ(TYO)の「震災からの心の復興」という活動趣旨に賛同し、震災を乗り越えて成長する子どもたちから生まれた「強くて美しい音楽」を東北から全国、そして世界へ届ける活動を支援しています。



東北ユースオーケストラの活動の様子



くるま (交通事故未然防止／交通事故被害者支援)

交通事故のない社会をめざして交通事故の未然防止や交通事故被害者支援など、さまざまな活動に取り組んでいます。

交通事故を防ぐために

<幼児向け>

■ JA共済アンパンマン交通安全キャラバンの開催

「JA共済アンパンマン交通安全キャラバン」が全国を巡回し、歌や踊りを通じて幼児に交通ルールを伝えます。

小さなお子さまに人気のJA共済のイメージキャラクター「それいけ! アンパンマン」。アンパンマンたちと交通ルールを学び、親子で交通安全について考える時間を提供しています。

©やなせたかし／フレーベル館・TMS・NTV



交通安全キャラバンの様子

<生徒向け>

■ 自転車交通安全教室の開催

中学校や高等学校で行われる交通安全教室の際、危険な自転車走行にともなう交通事故の実演(スタントマン)により、危険性を疑似体験させる教育手法(スケアード・ストリート方式)を警察等と連携し、推進しています。



自転車交通安全教室の様子

<シルバー世代向け>

■ 交通安全教室の開催

高齢者の交通事故を防ぐために、「シルバー世代向け交通安全教室」を開催しています。

JA共済オリジナルの「交通安全落語」で笑いながら交通安全の意識を高め、誰でも楽しく参加できる内容になっています。



交通安全落語の様子

■ 自動車安全運転診断の実施

高齢ドライバーの交通事故を防ぐために、ドライビングシミュレーター搭載車両「きずな号」を全国に4台配置し、巡回型の安全運転診断を行っています。

過去の事例を参考に、事故を起こしやすい場面を再現したドライビングシミュレーターを使い、約5～14分程度の体験で安全運転のアドバイスが受けられる内容となっています。



自動車安全運転診断の様子

<全世代向け>

■ 自転車安全運転診断の実施

自転車事故防止を目的として、全世代を対象に、自転車シミュレーター搭載車両「すまいる号」を全国に4台配置し、巡回型の自転車の安全運転診断を行っています。

約5～10分程度の体験で自転車乗用中の交通ルールや危険予測を実践的に学習できます。



自転車安全運転診断の様子

■ 服装“見えやすさ”診断の実施

薄暮時間帯・夜間の交通事故削減に向けて、歩行者がドライバーからどのように見えるのかを診断できるソフトウェア「見えチェック」を(一財)トヨタ・モビリティ基金と共同で開発し、服装“見えやすさ”診断を行っています。

自身の姿がドライバーからどのように見えるのかを確認する体験活動を通じて、明るい服装や反射材の着用を促進しています。



服装“見えやすさ”診断の様子

交通事故被害者の社会復帰のために

■ 介助犬の育成・普及支援

交通事故などにより手足に障がいのある方の日常生活を介助する「介助犬」の育成・普及支援に取り組んでいます。

社会福祉法人日本介助犬協会の事業の支援や、NPO法人日本補助犬情報センターへの研究支援、介助犬によるデモンストレーション「ガンバレ! 介助犬! JA共済はたらくワンワンランド!」を開催しています。



はたらくワンワンランドの様子

■ 社会復帰支援のためのリハビリテーションセンターの開設

静岡県の中伊豆と大分県の別府に交通事故等による身体障がい者の社会復帰支援を目的としたリハビリテーションセンターを開設しています。

これら2つのリハビリテーションセンターは、「病院」「福祉施設」「介護施設」の3つの機能を持った全国でも数少ない総合型の施設です。

1973年の設立以来、「身体障がい者のしあわせ」と「福祉社会の建設に寄与すること」を理念として交通事故被害者などの社会復帰をお手伝いしています。



社会福祉法人 農協共済
中伊豆リハビリテーションセンター



社会福祉法人 農協共済
別府リハビリテーションセンター

交通安全に関連するその他の取り組み

JA関連医療機関の救急医療およびリハビリ医療の充実を図ることにより、交通事故被害者の救命や交通事故障がい者の社会復帰の支援を行っています。

このほか全国交通安全運動やシートベルト・チャイルドシート着用推進運動など交通事故防止対策活動への協賛を実施しています。

また、交通事故被害者の被害軽減・救命率向上などに寄与するドクターヘリの普及促進への支援も行っています。東日本大震災では、全国から集結したドクターヘリが、孤立した病院の患者の救出など、被災者救援に貢献しました。



全国交通安全運動ポスター

県域での主な取り組み

交通安全資材等の寄贈

地域の交通安全に向けた取り組みとして、交通安全傘・帽子・ランドセルカバーや反射材などの配布を行っています。

また、カーブミラーなどの寄贈を行い、安心安全な地域環境づくりに貢献しています。



JA共済の交通事故の未然防止や交通事故被害者支援の取り組みの一部は、自賠責共済の運用益を活用しており、自賠責共済運用益等使途選定委員会*にて活用使途を審議のうえ実施しています。

*自賠責共済運用益等使途選定委員会とは、共済契約者の代表、学識経験者で構成され、自賠責共済の運用益の使途を審議することを目的とした委員会です。

▶ JA共済の地域貢献活動ホームページ「ちいきのきずな」



ホームページ「ちいきのきずな」では、JA共済の地域貢献活動にかかるさまざまな情報を紹介しています。

また、「健康で安心して過ごせる」「子どもたちが楽しく交通ルールを学べる」コンテンツなど、各種お役立ち情報も公開しています。

▶ JA共済の地域貢献活動のロゴマーク



© 2017 JA-KYOSAI

日本地図から出ている新芽は、全国各地の活動が、地域に根付くようにという想いを、そして「貢献」の文字が手を取りあっている様子は、地域の皆さまとJA共済が手を取りあって支えあう姿をイメージしたロゴマークです。

農業のために 地域のために 明日のために

JA共済はこれからもさまざまな地域貢献活動に取り組んでいきます。



<https://www.ja-kyosai.or.jp/>